

令和5年度地域懇談会における主な意見と県の考え方

参考資料 2 - 3

【テーマ1】地域の課題や必要な施策・取組の方向性について(総合計画第5章関係)

No	地域	発言者	分野	意見等	県の考え方
1	県北	意見発表者	第5章 地域別の主要施策	同じような価値観や方向性を持った事業者や住まい手が集まることによって、特徴的なエリアになってくる。藤田駅前エリア(国見町)では、地元の豊かな食材、環境に優しい、若い人がかっこよく暮らしていけるまちという価値観を関係者で作っていきたいと考えている。	-
2	県北	意見発表者	第5章 地域別の主要施策	県北地域は、農作物の生産地としての魅力を町の中に表現してはどうか。例えば、町内に、菓子工場など地元食材を使って表現をする人たちを誘致できると良い。その結果、関連産業や雇用が創出され、地域経済の好循環というのが生まれるのではないかと。	地域の飲食店と連携し、地域農産物を用いたメニュー開発などにより、産地としての魅力の向上やまちづくりにつながる取組を進めてまいります。
3	県北	意見発表者	第5章 地域別の主要施策	町では、人口減少で経営者や担い手が少なくなっている。なかでも、個人経営者は定年が無いようなものであり、高齢になっても、元気な経営者が増え、良くも悪くもなかなか事業承継が進まない。	地域や事業者等の実情を丁寧に伺いながら、関係団体と連携し、それぞれが抱える課題に応じて適切な支援につなげる相談体制や、空き店舗活用の補助などにより中心商店街のにぎわい創出などを支援してまいります。
4	県北	意見発表者	第5章 地域別の主要施策	町内にバイパス道路が開通し、バイパス沿いに大手スーパーやドラッグストアが来た影響で、人の流れがまちなかを通らなくなった。さらに、若手後継者の不足というダブルパンチで小規模事業者や個人商店が苦戦している。	
5	県北	意見発表者	第5章 地域別の主要施策	今年、田んぼの学校の受入を行っているが、環境教育や食農教育を進めるためにも、できれば学校一つ一つに田んぼや畑があったほうが良い。	全ての学校に農地を用意することはできませんが、環境教育や地域資源を生かした食に関する教育を「田んぼの学校」などの体験学習を重視し、各校の実態に応じて推進してまいります。 また、農業体験等の指導者を派遣する事業も実施しております。
6	県北	意見発表者	第5章 地域別の主要施策	川と道をテーマに、夏休みの自由学習をターゲットにした教育旅行を計画してはどうか。定年退職する先生は優秀な人が多く、県の教育委員会で定年退職した先生を派遣してもらえないかと考えている。	教育旅行に携わる人材の要望があれば、市町村教育委員会等の関係機関に情報提供してまいります。
7	県北	審議会委員	第5章 地域別の主要施策	企業誘致は水もの。誘致した時は良いが、撤退した時に雇用者はどうなるのかを考えてしまう。 地元の中小企業に魅力がある企業がたくさんあると思うので、企業が魅力をアピールすることを県が支援していく。地元の店舗を育てていくことが大切である。	小中学生が地域企業や地域の魅力に触れる機会、高校生が地域の多様な働き方を知る機会等を設けるなど、若い世代が地域の良さを知り、愛着を深める取組を進めてまいります。
8	県中	意見発表者	第5章 地域別の主要施策	首都圏での情報発信のツールとして、地域のプロモーション動画を作成した。住民が地域に対する誇りや愛着を生む地域づくりを外からの視点で改めて表現することによって、自分たちの住んでいるところの良さの再認識、確認ができた。	-

No	地域	発言者	分野	意見等	県の考え方
9	県中	意見発表者	第5章 地域別の主要施策	福島県出身で首都圏や関西圏にいる人たちに、この地域が良いところだと思いを直してもらえよう機会を作っていけば良いと思う。	引き続き、首都圏をはじめとする県外の方々に対して、地域の魅力を発信する様々な取組を進めてまいります。
10	県中	意見発表者	第5章 地域別の主要施策	バイパスの整備により、町中の交通事故問題の解消や、利便性が向上した。道路の投資は、ビジネスや工場の設置、地元の雇用、生活等の地域の循環にも結びついている。	継続してバイパス整備を進めることにより、交通・物流の良好なネットワークの構築と市街地の交通混雑緩和、また安全で円滑な交通の確保に努めます。
11	県中	意見発表者	第5章 地域別の主要施策	県の声かけで、他業者で交流、連携できるような機会をつくり、一緒に行動できればより魅力的な地域になるのではないかと。	御意見を踏まえ、地域で活躍する関係団体や事業者等と連携して個性と魅力ある地域づくりに取り組んでまいります。
12	県中	意見発表者	第5章 地域別の主要施策	インバウンドを見据え、海外の方が面白いと言ってくれるものを取り上げることで、地域での気づきにもつながり、好循環が生まれるのではないかと。	県中地域ならではの地域資源をいかしたアクティビティ体験や食体験などの観光コンテンツを通して、地域の魅力をより感じることができる情報発信の強化に努めてまいります。
13	県中	意見発表者	第5章 地域別の主要施策	県中地方、福島県の強みを伸ばす、弱みを克服するよりも強みを伸ばす方向に意識しながらやっていただきたい。	—
14	県中	意見発表者	第5章 地域別の主要施策	各企業が相乗効果を起こすための共創の場、業界の枠を超えたつながりのきっかけをつくる場づくりの施策があると良い。	御意見を踏まえ、地域事業者や地域キーパーソンとの交流の場を設けることによる地域の活性化策に取り組んでまいります。
15	県中	意見発表者	第5章 地域別の主要施策	県立高校の先生方、生徒は地域とつながる機会が少ない。そこをうまくつなげることで、地域を知り、誇りや愛着、地域づくりの担い手の育成につながる。	地域の資源をいかして学校や地域が相互に連携を図れるような取組を進め、地域と学校が協働して地域に対する誇りや愛着、地域とのつながり強化につながるよう努めてまいります。
16	県中	意見発表者	第5章 地域別の主要施策	高校生達は、大学生など自分たちより少し上の年代と関わる機会が少ない。高校卒業後の子供たちの居場所づくりや大学生が高校生に会いに来てくれるような場所づくり、交流の場、楽しいことができる場所づくりなどのサポートが必要。	御意見については、関係部局や市町村等と連携し、施策等を推進していく際の参考とさせていただきます。
17	県中	意見発表者	第5章 地域別の主要施策	過疎地域の子供たちは、郡山に出て行くだけでも一苦労する。地域で活動するための交通の問題、補助があるといい。	御意見を踏まえ、過疎・中山間地域における地域の課題や地域の活性化に資する取組を市町村と連携を図りながら、支援してまいります。
18	県中	意見発表者	第5章 地域別の主要施策	面白い大人たちがいるような地域で、自分たちが大人になったらこういう楽しいことができそうだというような未来を描きやすい場所づくりをしていきたい。	—
19	県中	意見発表者	第5章 地域別の主要施策	地域の人たちが自分の地域のファンではないと、その気持ちが漏れ出てこない。その漏れ出てくる気持ちが周りの人達に影響していく。地域、企業では出来ないようなところをもっとよりサポートしていただきたい。	御意見については、関係部局と協力しながら、県の施策等を推進していく際の参考とさせていただきます。

No	地域	発言者	分野	意見等	県の考え方
20	県中	意見発表者	第5章 地域別の主要施策	山林を空間として利用する取組のなかで、様々な人々とのつながりや応援団が生まれた。これら山の価値を加えた形で林業の魅力を発信することができるのではないかと。	林業への理解を促進するため、森林の中で働けるという林業ならではの良さを発信していくとともに、高校生の林業見学の開催などにより就業機会を提供し、人材の確保・育成を進めます。
21	県中	意見発表者	第5章 地域別の主要施策	高齢者向けの健康体操がマンネリ化しがちで、効果がなかなか得られない。高齢の方々に幅広くサポートできる体制が必要。	介護予防活動については、各地域において「通いの場」を立ち上げ、健康体操に限らず様々な取り組みが行われているところです。各地域のニーズを把握し幅広い活動ができるよう、市町村と連携しながら継続的に支援していきます。
22	県中	審議会委員	第5章 地域別の主要施策	年代や業種を超えて関わり合いが持てる場があると入りやすい。小さな会みないなのが、緩くできるような環境づくりができればいい。	御意見については、関係部局と協力しながら、県の施策等を推進していく際の参考とさせていただきます。
23	県中	審議会委員	第5章 地域別の主要施策	子供たち、高校生が長く自分たちの地域愛を醸成できるようなことを少しずつ、長く、ゆるやかにやっていると効果がでてくるのではないかと。	—
24	県中	審議会委員	第5章 地域別の主要施策	外から来た人と一緒につながって福島を一緒に盛り上げていく、地域に対する愛着を内側の人にもつくっていき、さらに外に発信をして、外の人を呼んでくるという循環ができるような施策ができればいい。	首都圏での移住セミナーやイベント等により地域のキーパーソンや地域住民と交流できる機会を提供し、地域とつながる関係人口の創出や継続的な関係性を強化する取組を進めてまいります。
25	県中	審議会委員	第5章 地域別の主要施策	外へのPRだけでなく、内側の人にも素敵などころをPRしてほしい。そういう施策も入れてほしい。	地域の観光資源をいかした体験周遊モニターツアーなどにより地域の魅力の情報発信及びPRを実施するほか、観光コンテンツの磨き上げや点在する観光資源を再編集することにより地域の魅力の発信強化に取り組んでまいります。
26	県中	審議会委員	第5章 地域別の主要施策	定住の観点として、移住してきた人が地域に愛着を持って住んでいるのかという評価目標なんかも入れてもらえたらいいと感じた。	御意見については、関係部局と情報共有し、評価目標設定の参考とさせていただきます。
27	県南	意見発表者	第5章 地域別の主要施策	工芸品を製造しているので、観光客集客のために当該工芸品を地域資源として外へ積極的に発信している。地域おこし協力隊をはじめとした移住者等の仕事を創出するためには、適正な賃金の確保が必要である。 当方では生産コストや販売コストといった利益構造を見直し、従業員の賃金の底上げを行っている。将来的には東京の水準まで上昇させることを目標としている。そういった取組が1社から10社、100社と広がることで地域での仕事創出につながっていく。 また、地元自治体において税収が上がっていないことから、地元企業としては県外や国外へ地域資源の魅力をPRし、外貨を獲得することが重要だと感じている。	適切な賃金水準の確保につきましては、移住される方の仕事の創出や産業人材確保の観点からも重要であると認識しております。 県といたしましては、観光関連産業などに携わる方々が安心して事業に取り組まれるよう、県内外からの一層の観光誘客に向け、広く特色ある県南地域の製品の魅力発信に努めるとともに、県南各地の特徴的な狛犬や管内全市町村にある「サウナ」を地域資源として更に磨き上げ、PR動画や特設サイトで発信するほか、地域の飲食店や企業等と連携した取組を展開してまいります。

No	地域	発言者	分野	意見等	県の考え方
28	県南	意見発表者	第5章 地域別の主要施策	<p>地域住民の健康づくりが、医療・介護保険の費用抑制につながっていく。そういった活動が次の世代の各種保険の負担を減らすとともに、間接的に地域振興にも寄与すると考えている。</p> <p>また、医療人材確保の面では、当方の施設は医学生による地域医療体験研修にも協力している。地域医療の現場では医師はもちろん不足しているが、看護・介護の人材も不足している。高齢者増加の2025年問題、高齢者が減少に転じる2040年問題も見据えて専門職の人材育成は考えていくべき。</p> <p>子どもからお年寄りまでの交流も含め、地域全体で健康づくりに取り組んでいく必要がある。若い人達が県外に流出したとしても、戻ってこられる場所を確保するとともに、戻ってこられる関係性を築いていきたい。</p>	<p>健康づくりの推進につきましては、地域の皆様が、生涯を通じて健康でいきいきと安心して暮らしていく上で不可欠な取組であり、また、将来の医療・介護保険の負担軽減を図る観点からも重要であると認識しております。</p> <p>県といたしましては、全国に誇れる健康長寿県、誰もがいきいきと暮らせる県づくりに向け、市町村や関係団体と連携しながら、各種の取組を進めてまいります。</p> <p>また、医療等の人材確保につきましては、安心な医療、介護・福祉を提供する体制の整備に向けて大変重要な課題と認識しております。</p> <p>地域医療を体験する研修の更なる充実を図るなど人材の確保や育成、定着に努めるとともに、ICTやロボットを活用した業務の効率化など、医師会を始め関係団体と連携しながら取り組んでまいります。</p>
29	県南	意見発表者	第5章 地域別の主要施策	<p>建設業における課題は採用と人材育成。大企業の誘致が盛んになっているが、大企業の地域参入により地元企業の社員採用が難しくなるという側面がある。</p> <p>また、人材育成の面では、「見て覚える」の世界でやってきた中堅職員は、新入社員への指導方法が分からないといった現状がある。同業種の横のつながりで情報共有しながら指導していく必要がある。</p> <p>当方では会社敷地内に研修棟を設け、実地研修を可能としているほか、同業種他企業や工業高校生にも解放している。工業高校に対しては、高校に出向いての資格取得支援も行い、人材確保につなげている。</p>	<p>建設業における人材確保につきましては、県では、建設業が将来にわたり持続可能で活力ある産業となるよう、振興施策を取りまとめた「ふくしま建設業振興プラン」を策定し、担い手の確保や育成に向けた様々な取組を実施しております。</p> <p>特に、今年度創設された白河実業高校建築学科の生徒に加え、小学生を対象とした現場見学会を開催し、実際に現場を訪れ仕事を体験していただくなど、若い世代にも建設業への理解や興味、関心がより深まるよう取組を進めてまいります。</p>
30	県南	意見発表者	第5章 地域別の主要施策	<p>地域企業の魅力の発信力が欠けている。いくら良い取組をしても、発信しなければ社外に伝わらない。自治体からの補助金を活用して活動する企業もあると思うが、重要なのは補助金活用後の自走。</p> <p>また、当方では昨年度から地域の企業と協力して小学生向けにSDGsをテーマとしたイベントを開催している。</p>	<p>人材確保に向けた企業の魅力発信につきましては、県では、「首都圏から地方暮らしをしたい」、「地元に戻りたい」と考えている方々に、県南の企業の情報やその魅力がしっかりと伝わるよう、企業と連携し工夫しながら、効果的な発信に取り組んでまいります。</p> <p>また、小学生から高校生向けの職業体験や工場見学、企業説明会などを開催し、仕事を見て体験することなどを通じて、若い世代に対し地元企業の魅力発信に努めてまいります。</p>
31	県南	意見発表者	第5章 地域別の主要施策	<p>進学で一度県外に出たが、地元に戻ってきて新規就農で牛を飼い始め、自治体の農業系職員に支援していただいた。一方で自治体の職員は異動があるので、自治体職員以外で就農で困ったときにすぐに電話できる人がいるというのが大事。特に地域外から就農した人に対しては、先輩農家とのマッチングや交流といった人的支援が必要ではないか。</p> <p>また、GAPについては、取得後に商品パッケージを改良するための補助金やデザイナーの紹介等といった支援がほしい。改良後のパッケージには、GAPのロゴや県が制作したGAPのPR動画の二次元コードの印字を条件にするなど。そういった取組をすれば消費者にもGAPが浸透するのではないか。</p> <p>なお、交流人口の拡大には、牛乳やアイスといった「モノ」だけではなく、牛を綺麗にするとところから始める搾乳体験などの「コト」の提供が大事ではないか。</p>	<p>新規就農者につきましては、地域内外からの就農を問わず県や市町村、関係団体が情報を共有し、連携して就農、定着から経営発展に向けた支援を行う体制を構築しております。</p> <p>また、同世代や地域の先輩農業者との交流につきましては、青年農業者クラブへの入会案内やJAの各生産部会への入会を勧めるなど、新規就農者が身近で相談できるよう働き掛けを行っております。</p> <p>GAPの推進につきましては、「農林水産業振興計画」に定める目標の達成に向け、GAP取得経営体の拡大と合わせ、生産された農産物が消費者の方々に広く浸透するよう、大手量販店等とのコラボによる商品開発を進めてまいります。</p> <p>また、商品パッケージのデザイン改良等に活用可能な補助事業もございますのでお気軽にお問い合わせください。</p>

No	地域	発言者	分野	意見等	県の考え方
32	県南	意見発表者	第5章 地域別の主要施策	<p>GAPに関してはPR不足が否めない、消費者まで浸透していないのが実情。しかし、グローバルGAPに関しては、あくまで農家の取組を表すものであって、商品と紐付けしてはいけないという規定がある。だが、JGAPやFGAPについては、国内であれば商品との紐付けが可能。農家では認証取得に膨大な手間がかかるため、それに見合ったPRを展開していかなければならない。そして、各種の仲介業者に対して、GAPの有利性や信頼性を理解してもらい取組も必要。</p> <p>また、新規就農者も若い世代が増えてくるので、その人達を受け入れる環境づくりが重要である。</p>	<p>GAPの推進につきましては、「農林水産業振興計画」に定める目標の達成に向け、GAP取得経営体数の拡大と合わせ、生産された農産物が消費者の方々に広く浸透するよう、大手量販店等とのコラボによる商品開発を進めるとともに、生産者や関係団体と連携しながら、GAPに関するセミナーやGAP農産物消費拡大のイベント等を通じ、理解の促進に取り組んでまいります。</p> <p>また、新規就農者につきましては、本年4月に設置した県農業経営・就農支援センターの機能を十分発揮し、就農相談から就農、定着、経営発展まで、JAを始め関係団体と共に丁寧にサポートしてまいります。</p>
33	県南	意見発表者	第5章 地域別の主要施策	<p>観光に関しては、隣接する茨城県との地域には相当な数の観光客が来ている。関東圏では茨城県関係のテレビ放送が入るので、その効果が大きいのではないかと。</p> <p>水郡線に関しても、茨城県までは乗車客が多いが、県南地域までは足が伸びないというのが現状。関東圏からの観光客を越境させるためには、もう一歩踏み込んだ取組が必要。</p>	<p>観光の推進につきましては、県内を始め関東圏など県外からの一層の観光誘客に向け、広く特色ある県南地域の製品の魅力発信に努めるとともに、県南各地の特徴的な拍犬や管内全市町村にある「サウナ」を地域資源として更に磨き上げ、PR動画や特設サイトで発信するほか、地域の飲食店や企業等と連携した取組を展開してまいります。</p> <p>また、水郡線につきましては、本年7月、沿線自治体やJRと共にワーキンググループを設置し活性化に向けた検討を進めております。引き続き、県内の沿線自治体を始め、JR、茨城県とも連携しながら、水郡線の持つ美しさや魅力を広く発信するなど、利活用の促進に取り組んでまいります。</p>
34	県南	意見発表者	第5章 地域別の主要施策	<p>不登校や引きこもりの子どもが近年増えている。当方では、西白河及び東白川の関係施設の方に呼びかけて、勉強会を行った。不登校等の対策は各自治体がバラバラに行っていては効果が現れにくい。教育と福祉には格差が存在してはいけない。地域として面的な対応が必要。</p>	<p>不登校等の子どもたちへの支援につきましては、県南管内の各市町村や学校が、共通の理解を有し、共通した丁寧で適切な指導対応を実践できるよう、全ての小中学校の生徒指導担当者に対してシンポジウムを開催するなど取組を進めてまいります。</p> <p>また、県南管内のスクールカウンセラーを対象に、不登校等対応における課題の共有や課題解決に向けた研修会を開催するほか、教育事務所の生徒指導担当者による学校訪問を通じて、不登校等対応への指導・助言を一層充実させてまいります。</p> <p>さらに、社会福祉制度を始め、幅広い社会的な制度や活動に関する情報・知識、並びに地域福祉やソーシャルワークの領域で培われた専門的な援助技術を用いて、問題を抱えている児童、生徒とその家族等への支援を行うため、スクールソーシャルワーカーを県南管内では3名雇用し、児童、生徒に関する情報を収集し、家庭環境等を理解した上で、学校、家庭、関係機関等が連携して活動できるように、連絡、仲介、調整を行っております。</p> <p>なお、保健福祉事務所においては、定期的にひきこもり家族教室を開催して家族同士の交流を図るとともに、事務所内に相談窓口を設けたほか、児童相談所白河相談室において、小中学校と連携して対応しております。</p>
35	県南	意見発表者	第5章 地域別の主要施策	<p>地域での森林伐採が多く見られ、大型重機が山に入ること等によって、河川への土砂流入の原因にもなっている。森林関係者への指導徹底をお願いしたい。茨城県のある地域では山林の削った部分に、50mから100m毎にゴム板が設置され、流れた雨水が山に戻るようになっている。</p>	<p>森林の整備につきましては、森林が有する多面的機能を確保しながら、適切に進める必要があります。</p> <p>そのため、森林作業道の作設に当たっては、地形や地質を考慮し林地の改変を最小限に止めるとともに、必要な排水施設を設置するなど、土砂の流出や林地の崩壊にも十分配慮した計画となるよう指導してまいります。</p>

No	地域	発言者	分野	意見等	県の考え方
36	県南	意見発表者	第5章 地域別の主要施策	<p>地域おこし協力隊として県南地域に移住してきた。隊員が定住しなければ失敗という風潮に違和感を感じている。隊員の活動期間の限度である3年間で定住を決めるというのは相当ハードルが高い。定住に至らなかったとしても、滞在した地域の関係人口であり続けることはできる。クリエイターの場合、東京ではビジネスライクな関係が主だが、地域の案件の場合、企画内容から地域の方々と一緒に考えるなど柔軟な対応が求められる。定住ありきではなく、地域に一度でも携わった方と、どう関係人口の形を作っていくかが重要ではないか。</p> <p>また、隊員をはじめとした移住者への起業の支援も大事であり、起業には横のコンネクションが活きることが多いと感じている。</p>	<p>地域おこし協力隊につきましては、都市地域から過疎地域等の条件不利地域に移り住み、地域ブランドや地場産品の開発・販売・PR等の地域おこし支援や、農林水産業への従事、住民支援など活動を行いながら、その地域への定住・定着を図る取組と認識しております。</p> <p>一方で、起業や就職の難しさを始め、様々なご事情からその地域を離れざるを得ない場合があることも十分理解しております。</p> <p>県といたしましては、定住等とまらない場合においても、引き続き、地域とのつながりを一層強めながら、当該地域の強力な理解者、支援者として、情報発信やワーケーション等の取組を通じた関係人口の創出・拡大にお力添えを頂きたいと考えております。</p> <p>また、地域おこし協力隊や移住された方とのネットワークづくりにつきましても、引き続き、市町村等と連携しながら支援してまいります。</p>
37	会津	意見発表者	第5章 地域別の主要施策	<p>雪国を楽しむというイメージで、除雪車を集めたデモンストレーションを実施してはどうか。歩道を守る除雪車、大きい除雪車、様々な除雪車の働きは、会津地域にとってとても重要だ。そのデモンストレーションを見ながら、雪国の住民として、自分たちが注意すべき点、協力すべき点を知らないといけないと思う。そこで、雪を楽しみながら、雪とうまく共存していくことを知るために、除雪車を集めたデモンストレーションイベントがあっても良いと思う。</p>	<p>除雪車が稼働している冬期間に御提案のデモンストレーションイベント等を行うことは業務上困難だと思われませんが、除雪作業は雪国に住む人たちが安心安全な生活を送るためには必要不可欠なものであり、その重要性を地域住民の方々に広く知ってもらい理解を得ることは作業を円滑に進めるためにも大事なことだと思われまます。</p> <p>意見の趣旨を踏まえ積極的な広報等を検討してまいります。</p>
38	会津	意見発表者	第5章 地域別の主要施策	<p>奥会津在宅医療センターは、現在は主に高齢者の方を対象としているが、子育て世代を支援するためには、急に熱を出した子どもへの対応などができるようになると良いと思った。</p>	<p>現在、奥会津地域において小児科を標榜する医療機関はありませんが、宮下病院や周辺町村の国保診療所において対応いただいているところであり、いただいた御意見については関係市町村と共有してまいります。</p>
39	会津	意見発表者	第5章 地域別の主要施策	<p>子育てで一番課題に感じたのは、子供達が高校生になる頃に考える通学方法だ。まず、雪国では冬季の自転車通学は難しく、親が車で送っていくようになる。次に只見線。風が吹けば運休になる。そうするとバスを利用することになるが、バス代が高いため、その日は学校を休むことにもつながる。通学手段の援助等の取組が必要だと思う。さもないと、始めから地元を出て寮を完備した高校への進学を検討することにもなりかねない。高校に無理なく通える取組があったら良いと思う。</p>	<p>管内は、面積が広く、冬期間の降雪量も多いことなどから、御意見にあるような現状は理解しておりますが、具体的な通学手段の援助等といった施策は、ありません。いただいた御意見については関係市町村等と共有してまいります。</p>
40	会津	意見発表者	第5章 地域別の主要施策	<p>川口高校で行っている地域を見つめ直す授業を、小学校や中学校でも地元の講師を招いたりできないか。地元の宝と触れ合う機会を小中学校のカリキュラムの中に入れてもらえると、より良いのかなと思う。</p>	<p>各小中学校では、総合的な学習の時間等において、地域の人材や物的資源を活用した郷土の伝統・文化等を探究する学習を行っております。</p> <p>また、学習指導要領に示されている「社会に開かれた教育課程」の実現を目指し、学校と地域の連携・協働を推進しております。具体的には、学校運営協議会(コミュニティ・スクール)や地域学校協働活動の導入により「地域とともにある学校づくり」「学校を核とした地域づくり」に努めているところです。</p>
41	南会津	意見発表者	第5章 地域別の主要施策	<p>次世代を担う自分の子供たちが、この南会津に残り、南会津を継承していくことに当たり、教育と医療が最低限充実していなければ駄目だと思う。次世代の子供たちがこの南会津に残るために最低限の社会的な基盤を、今後10年で絶対に取り戻し、つくり上げていかなければいけないと思う。</p>	<p>関係機関の連携により様々な施策・事業を展開するとともに、南会津地域の様々な課題の解決に向けた取組を進めてまいります。</p> <p>また、安心して生活できる医療の確保と地域の担い手となる人材の確保及び育成に取り組んでまいります。</p>

No	地域	発言者	分野	意見等	県の考え方
42	南会津	意見発表者	第5章 地域別の主要施策	道路改良や治山、林道整備を行っているが、作業員の高齢化を感じている。	地域の担い手となる人材の確保及び育成に取り組むとともに、労働安全に対する助言・指導により支援してまいります。
43	南会津	意見発表者	第5章 地域別の主要施策	全てにつながる話だが、全ての職に対して、若い人たちが地元に残ってくれない。また、結婚しない人も増えている。普段から人員、作業員の確保をどうするかが課題。特に、南会津は冬場大変な雪が降るので、毎年、除雪体制やオペレーターの確保に苦勞している。	地域の担い手となる人材の確保及び育成に取り組んでまいります。
44	南会津	意見発表者	第5章 地域別の主要施策	建設業者が委託を受ける前は役場が直営で除雪をしていたが、その時代に戻るのではないかとよく話している。ある程度の人員を確保しているのは行政機関だけである。経費、その他も大変だということになれば、役場自身で除雪をするのが、インフラや地域の皆さんの健康など、全てを守る一番的確で手っ取り早い手段ではないかと感じている。	地域の担い手となる人材の確保及び育成、また、中小企業の経営支援に取り組んでまいります。
45	南会津	意見発表者	第5章 地域別の主要施策	檜枝岐歌舞伎は、後継者をこれからどんどん確保していかなければいけない。伝統文化を守ることにより、観光にも影響があると思う。地元出身者だけでなく、よそからも人材をつなげる必要があると思う。	地域の子どもや若者を対象にした郷土愛の醸成、地域の特性を活かした移住推進に取り組んでまいります。
46	南会津	意見発表者	第5章 地域別の主要施策	2010年から中学生に文化祭で檜枝岐歌舞伎を演じてもらっている。これが非常に役に立っており、第1回の文化祭で演じた方が村に帰ってきて、花駒座に入座している。	地域の子どもや若者を対象にした郷土愛の醸成、地域の特性を活かした移住推進に取り組んでまいります。
47	南会津	意見発表者	第5章 地域別の主要施策	新型コロナウイルス感染症のクラスターが発生した際に、南会津地域内で法人を超えた相互協力、人材確保、地域における共通課題について情報共有の場の必要性が求められ、南会津管内の特別養護老人ホームで構成する協議会が設立された。地域連携という観点から、研修会には管内の福祉施設、各事業所からも多くの参加をいただいた。 令和5年度もこの協議会を開催し、課題検討、情報共有はもちろんのこと、研修会の開催を予定している。	安全な暮らしの確保と介護・福祉人材の確保に取り組んでまいります。
48	南会津	意見発表者	第5章 地域別の主要施策	介護の仕事に興味を持っていただきたいが、高校生では遅いので、今回は中学生を対象に、南会津保健福祉事務所の主催で南会津病院、田島ホームのセットで、見学・体験の事業を実施する予定。	地域の担い手となる人材の確保及び育成、医療・介護・福祉人材の確保に取り組んでまいります。
49	南会津	意見発表者	第5章 地域別の主要施策	計画の第6章にも、「様々な主体がそれぞれの役割のもと、力を合わせた取組が必要」と記載されている。以前から、それぞれの実施分野、得意分野で関係団体へのアプローチが有効でないかと考えている。	関係機関の連携により様々な施策を展開するとともに、地域資源を活用した産業の振興に取り組んでまいります。
50	南会津	意見発表者	第5章 地域別の主要施策	鳥獣被害で、近所のリンゴをつくっていた方がやめたりといった現実があり、農業を取り巻く環境というのが厳しくなってきていると感じる。	鳥獣被害対策の強化、地域資源を活用した産業の振興に取り組んでまいります。また、引き続き、里山整備活動の支援と集落ぐるみの鳥獣被害防止対策を併せて推進してまいります。

No	地域	発言者	分野	意見等	県の考え方
51	南会津	意見発表者	第5章 地域別の主要施策	インターネットの普及に伴い、生産者や製造業者と、最終消費者が直接結びつくのが容易になる中で、いろいろな可能性がある。そういうところをもっと生かして、たくさんの若手が地元の学校を卒業して就職するとか、農業に興味がある地元出身者がUターンしてくるなど、そういう人たちを1人でも多く雇えるように頑張ることが1企業として最も大事なことでと考える。	地域の特性を活かした移住推進、移住者ネットワーク等をつうじた移住者支援に取り組んでまいります。 また、デジタル化の推進や中小企業の経営支援・技術力支援、さらには地域資源を活用した産業の振興と地域の担い手となる人材の確保及び育成に取り組んでまいります。
52	南会津	意見発表者	第5章 地域別の主要施策	農業というものはどうということなのか、大人になったときに、ふと中学や高校の頃地元で農業やっている人の話を聞いたなというのを思い出してくれるだけでも、地元に戻ってくるきっかけになったりとか、農業の道に進んでみたいというきっかけになったりというのもあると思うので、積極的に受け入れるようにしている。 中学校の職場体験で受入れた子が、当社で行った農業体験が楽しかったからということで、今年、アルバイトに来てくれた。	地域の担い手となる人材の確保及び育成、地域の子どもや若者を対象にした郷土愛の醸成に取り組んでまいります。
53	南会津	意見発表者	第5章 地域別の主要施策	下水道も完備されているが、集落の住民が減ることで、そうしたインフラの維持管理費がとて大変になってきているのも現状。	地域の担い手となる人材の確保及び育成、地域コミュニティの活性化支援に取り組んでまいります。
54	南会津	意見発表者	第5章 地域別の主要施策	観光に従事する人を募集をしてもなかなか集まらない。季節雇用にしてしまうと、次のシーズンに職員を確保出来ないということもあり、昨年、急遽、それまで臨時だった職員を正職員に格上げするなど、雇用の形態を少しずつ変えて、会社の維持に努めている。大内宿さえも店を閉じてしまうところや空き家が増えているというのが現状。	地域の担い手となる人材の確保及び育成に取り組んでまいります。 また、地域資源を活用した産業の振興や「みなみあいづならではの魅力」の掘り起こし及び磨き上げ、さらに空き家の有効活用の推進に取り組んでまいります。
55	南会津	意見発表者	第5章 地域別の主要施策	伝統的な景色は決して町並みだけの問題ではなく、それを取り巻く里山の風景ではないかという基本理念の中で、農業もやれたらということで農業法人とタッグを組んでいることは、明るい兆しだと思う。担い手不足、耕作放棄地が、観光の中でも荒れた土地、荒れた景観をつくり出しているのは事実である。 ヨーロッパでは、観光地とその周囲の国土を保全していくことで、美しい景色をつくり上げていて、それが観光客を呼び込む一つの手だてにもなっていると思ったときに、観光と農業を線引きするのではなく、農業で獲れたものを観光で使う、観光で上げた収益を農業に回していくというような、観光と農業の循環型が出来たらとてもいい。	地域資源を活用した産業の振興や「みなみあいづならではの魅力」の掘り起こし及び磨き上げに取り組んでまいります。
56	南会津	意見発表者	第5章 地域別の主要施策	農家民泊の事業者の方々も高齢化により、受入れが非常に困難になっているのも現実。農家民泊を推奨してきたが、コロナ禍で受け入れできない3年間の間にやめてしまった人もいる。そうした農家が、今後、復活できるかと言ったとき、後継者がいる農家はいいが、後継者がいないところは頑張っても途絶えてしまうのが現状。	地域の担い手となる人材の確保及び育成、地域資源を活用した産業の振興、観光客及び教育旅行受入体制の整備に取り組んでまいります。
57	南会津	意見発表者	第5章 地域別の主要施策	緑豊かというのは、無造作にどこまでも好き放題に草が生えてることではなく、境目のコントラストとか、そういうことがすごく大切なのではないかと思う。只見スキー場は、去年からレストランだけ一年中オープンすることになり、私もよく食べに行っていたが、秋まで草を刈らないため、背丈以上の草を眺めながら食事するのですごく嫌だと思っていた。今年、羊の放し飼いを始めたり、トラクターで刈ったり、賛同してくれる人たちと、毎週楽しみとして管理しているが、財産が眠っていると感じた。放置され、気づかなかったところがどんどん復活してきて、また人の輪も広がっている感じで、すごくいいと思っている。	地域資源を活用した産業の振興や「みなみあいづならではの魅力」の掘り起こし及び磨き上げに取り組んでまいります。 また、地域の担い手となる人材の確保及び育成、集落等の地域コミュニティの活性化支援に取り組んでまいります。

No	地域	発言者	分野	意見等	県の考え方
58	南会津	審議会委員	第5章 地域別の主要施策	協議会とか、会社として農業をやるとか、個人ではもう難しい時代だと思う。10月ぐらいからインボイスと言われると、1人に仕事を頼めなくなってしまいます。農業もそういうことになっていくし、今日だけ手伝ってというのが出来なくなってしまいます。ということは、小さな地域だとしてもそこにきちんとした組織をつくっておくというのはすごく大事だと思う。	中小企業の経営支援や技術力強化、農業の法人化の支援に取り組んでまいります。
59	南会津	審議会委員	第5章 地域別の主要施策	中学生とか小学生とか、小さい子たちの「魂」の教育を地域の皆さんが請け負ってやるということが大事になってきている。もう一本釣りの世界だと思う。小さいときから抱えるしかないのかもしれない。「きみはうちに来るんだよ」みたいなことを言うとか、していくとか。本当にやりたいことなんだから、子供はすごく素直なので、きっと来てくれるというのが、今日見えた。	地域の担い手となる人材の確保及び育成、地域の子どもや若者を対象にした郷土愛の醸成に取り組んでまいります。
60	相双	意見発表者	第5章 地域別の主要施策	「相双地域の魅力戦略的情報発信事業」の相双地方魅力発信ポータルサイトについて、写真が多く、見たら実際に訪れたいと思われる内容で素晴らしいと思うが、相双地域の各移住サイトに飛べるような移住コンテンツページが1枚あると、移住・定住によりつながるのではないかと。	相双地方魅力発信ポータルサイトは、主たる目的が観光・物産情報など地域の魅力発信による交流人口拡大と風評払拭であることから、移住関連記事の掲載予定は今のところありませんが、引き続き、県ふくしまぐらし推進課やふくしま12市町村移住支援センターの各移住ポータルサイトへの関連リンクを設け、誘導を図ってまいります。
61	相双	意見発表者	第5章 地域別の主要施策	県総合計画は、2030年まで実施していく県づくりの指針であることから、全県民で進めていくという方向性を私達県民も持たなければならぬ。計画に記載している取組を皆で協力して進めていく必要がある。	—
62	相双	意見発表者	第5章 地域別の主要施策	移住に魅力を感じ、移住する方がたくさんいると思うが、移住することは最終目標ではなく、移住先でちゃんと生活し、住民税や所得税を納めることができ初めて成果が得られたと言えるのではないかと。きちんと儲かる農業を実践し、税金を地域に納めて、地域に貢献するというのが定住の成果であると思う。	農業関係では新たな担い手を確保するため、就農希望者を対象とした現地研修会や農業体験、農業短期大学生を対象とした農業法人等の現場研修会などを実施し、令和4年度は、相馬地方で13名、双葉地方で12名の新規就農者を確保することができ、うち21名は雇用就農となっております。ただし、今後は新規就農された方の定着化が重要になるため、そちらに向けた支援等も、併せて行っていきたいと考えております。
63	相双	意見発表者	第5章 地域別の主要施策	移住については、福島県庁(企画調整部)の他に12市町村移住支援センターや官民合同チーム、相双地方振興局などで様々な移住事業が行われているが、相双地域の人材不足は本当に深刻で、一番の緊急課題であると思っている。様々な取組を相互情報ツールの共有をしっかりと行い、発信していくと良いのではないかと。	相双地方振興局が運営する相双地方魅力発信ポータルサイトに、県ふくしまぐらし推進課やふくしま12市町村移住支援センターの各移住ポータルサイトへの関連リンクを設け、誘導を図ってまいります。
64	相双	意見発表者	第5章 地域別の主要施策	「魅力体感！そうそう体験型観光振興事業」のガチャを活用した周遊促進イベントについて、非常に好評で、設置後1週間で完売するような状況で、非常に効果がある事業であった。特に、他市町村からの来訪者が多かった印象で、交流人口拡大という意味で非常に効果があった。さらに趣向を凝らした事業展開をお願いしたい。	令和5年度は、「伝統・食文化をつなぐ！ぐるっとそうそう広域周遊事業」を展開し、昨年度に引き続き、ガチャを活用した周遊促進イベント「そうそうはしおき広域周遊ガチャ」に取り組むとともに、新たに、地酒と食文化に着目した「そうそう地酒御集印ラリー」に取り組み、周遊促進による交流人口拡大、特産品等の知名度向上や新商品・料理レシピ開発による物産振興・地産地消・地域産業の持続的発展、伝統・食文化継承の促進を図ってまいります。

No	地域	発言者	分野	意見等	県の考え方
65	相双	意見発表者	第5章 地域別の主要施策	昨日、開催された「国道399号あぶくまロマンチック街道沿線自治体連絡協議会」は非常に良い取組であると思う。自分の地域、自治体は知っていても、隣の市町村は知らないことが多くあることから、それぞれの強みをしっかりとお互いに共有すること、先ず、隣の市町村に行ってみようという気持ちを持つことができれば、皆と一丸となって進んでいけるのではないかと。	国道399号沿線地域の振興については、協議会が策定した「沿線地域アクションプラン」の実現に向け、今後、定期的に「行政・地域づくり団体等の実務者による協議・検討の場」が開催され、先ず、お互いの市町村の観光、商品コンテンツの情報共有を行った上で、エリアイメージの検討等を進める予定となっております。相双地方振興局としても、沿線5市町村の広域連携が持続的かつ効果的に推進されるよう、協議会のオブザーバーとして、当事者意識を持ち、自治体と議論を密にしながら、共感と合意に基づいた事業の具体化を支援してまいります。
66	相双	意見発表者	第5章 地域別の主要施策	医療環境という点で、子どもを診てもらえる病院が少ないという現実がある。特に、突発的に何かあったときに、浜通りに行けず、郡山市まで行かなければならないケースがあるので、改善いただけると住みよい地域になるのではないかと。	子どもを安心して産み育てやすい環境となるよう、避難地域における医療機関の開設や再開を支援してまいります。
67	相双	意見発表者	第5章 地域別の主要施策	医療・福祉・介護の人材不足がかなり深刻な状況になっている。そもそも介護人材は全国的に不足しており、介護福祉士資格を取得するための専門学校などは定員割れをしている状況である。県で実施している色々な支援制度の継続と更なる充実をお願いしたい。	介護職を希望する方への修学資金や就職準備金の貸与、外国人材の受入れ等の人材確保施策を行っているところであり、今後も引き続き支援を行ってまいります。
68	相双	意見発表者	第5章 地域別の主要施策	新型コロナウイルスについて、5類に移行したが、医療機関や高齢者施設は、引き続き感染対策が必要な状況である。施設内部では、5類移行前とそれほど変わらず、安全対策を徹底して行っているような状況であり、感染予防の啓発活動や感染予防対策に要する費用も嵩んでおり、施設運営を圧迫するような状況が続いていることから、費用助成をお願いしたい。	5類移行後も高齢者や基礎疾患のある方の重症化リスクに変わりはないため、引き続き他の感染症と同様に、基本的な感染防止対策が重要であると考えております。必要に応じて感染対策に係る助言を行うほか、感染者が発生した場合に必要な費用等の支援について検討してまいります。
69	相双	意見発表者	第5章 地域別の主要施策	過疎・中山間地域における持続可能な教育のあり方という点に、双葉郡の学校は特に取り組んでいるところ。課題先進地と言われる地域として、子ども達が深く考えて、他の人達と協働することを学びの中心に添え、他の人との協働を通して解決する能力を子ども達に身に付けてもらいたいという気持ちで、教育活動が進んでいる。 特に、どの学校でも行われているのが、縦割りでの授業展開であり、川内村の義務教育学校では、小学校1年生から中学校3年生までが縦割り班として授業と学校行事等を行っている。その効果として、子ども達同士の非認知能力、達成度、自己肯定感、自己有力感というところが伸びてきている。 また、双葉郡では極少数人数での授業を行っている学校が多数あり、その中で、ICT教育の推進等を行っているところだが、それらを実現していくには、教員の適正配置が必要。相双地区の学校は、複雑な家庭環境を背景に学校に通っている児童生徒も多く、きめ細かな教育を行っていくためには、加配教員の配置等が必要となる。	相双地域の学校教育については、「令和の日本型学校教育」の実践に向け、「新しい学びのかたち」として、『個別最適な学び』と『協働的な学び』の一体的な充実、「主体的・対話的な学び」からの「深い学び」の実現を共通実践事項として掲げ、域内の幼稚園・こども園、小・中・義務教育学校、県立学校に対して、「相双らしさ」を活かした指導助言に取り組んでまいります。 教職員の配置については、児童生徒数に応じた定数を配置するとともに、復興推進加配等の配置に取り組んでまいります。
70	相双	意見発表者	第5章 地域別の主要施策	複雑な家庭環境で生活する児童生徒に対しては、被災者健康サポート事業、子ども健やか訪問事業等を活用して、児童生徒の保護者に対する心のケア、生活へのフォローなどをスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーと協力して行っており、継続的な支援が必要である。	複雑な家庭環境で生活する児童生徒に対しては、被災者健康サポート事業や子ども健やか訪問事業等の活用や小学校31校、中学校17校、義務教育学校3校へのスクールカウンセラーの派遣、6市町村へのスクールソーシャルワーカーの派遣により、児童生徒や保護者等への専門的な支援の継続に取り組んでまいります。

No	地域	発言者	分野	意見等	県の考え方
71	相双	審議会委員	第5章 地域別の主要施策	「相双地域の魅力戦略的情報発信事業」の相双地方魅力発信ポータルサイトについて、観光と移住と生活は全てリンクしていると思うので、相互リンクなど簡単なところからでも良いと思うが、地域の魅力、買い物、生活基盤などが分かるような情報発信の仕方が、移住希望者、関心を寄せている交流人口に入る方々も魅力的に感じるのではないかと思う。	相双地方魅力発信ポータルサイトは、主たる目的が観光・物産情報など地域の魅力発信による交流人口拡大と風評払拭であることから、移住関連記事の掲載予定は今のところありませんが、引き続き、県ふくしまぐらし推進課やふくしま12市町村移住支援センターの各移住ポータルサイトへの関連リンクを設け、誘導を図ってまいります。
72	いわき	意見発表者	第5章 地域別の主要施策	後継者のいない梨農家では、高齢化による廃業後に梨の木を伐採してしまうが、梨の新規就農を考えている方に貸付や売買等可能な仕組みを作れば、梨の生産力も維持、拡大していくのではないか。	後継者が営農継続する形が望ましいことは十分認識しております。後継者のいない方が廃業された場合、梨園がそのまま放置されないことがないよう、いわき市等関係機関と連携し、円滑な園地の継承に向けた体制づくりに取り組んでまいります。
73	いわき	意見発表者	第5章 地域別の主要施策	福島大学食農学類の学生の研修等をいわきで行い、学生の就農につながるような仕組みを作れば、いわき地域全体の農業の維持につながるのではないか。	いわきでの研修を大学側でも検討しましたが、移動時間等の問題がありました。教育機関と連携した新規就農者確保の取組につきましては、県立磐城農業高校や農業短期大学の学生を対象とした農家研修を実施しております。
74	いわき	意見発表者	第5章 地域別の主要施策	海・街・山それぞれに地域の特性があり、そういった地域の魅力を単色で染めてしまうのではなく、各地域の歴史的・文化的な宝物を再確認し、その上でまちづくりをしていくことが必要になる。そのような取組が各地域の魅力を再発見することとなり、結果として、その地域の内需の拡大につながる。内需が拡大するような面白い地域が、結局は外の方々にとっても住みたいまちであり、関わりたい地域になるのではないか。	御意見のとおり、地域の特性をいかしたまちづくりが重要であると考えます。地域の特性をいかしつつ、地域の魅力を発掘・再発見するとともに、その価値を高め、新しい魅力の創出に向け、関係機関と連携し取り組んでまいります。
75	いわき	意見発表者	第5章 地域別の主要施策	まちづくりにおいて、行政主体のハード整備も重要であるが、そこに住む市民が住みたいまちをつかっていくために市民が参画できることが重要である。長年同じまちで生活し商売をしても、自分とは関係ないところで全てが進んでいくことに諦めの気持ちを抱いてきた。 様々な人たちと一緒に考えること自体が多様性をいかしたまちづくりであり、本来目指すべき姿ではないか。	道路等の公共施設を活用する地域の皆さんと意見交換しながら持続的に利用される方法を検討してまいります。 また、「ふくしま創生総合戦略」において、「暮らしの豊かさを実感できる地域をつくる」ことを基本目標に掲げており、多様な人が参加・連携する地域づくりを推進し、住民が主体となった地域の課題解決や活力ある地域づくりに取り組んでまいります。
76	いわき	意見発表者	第5章 地域別の主要施策	少子高齢化社会に向け、車がなくとも移動に不自由がないまちづくりのため、地域の公共交通をどういかしていくのが課題になっている。	少子高齢化の進行や車社会の進展等により、地域公共交通の利用者は減少しており、持続可能な地域公共交通の確保・維持や沿線自治体と連携したJR磐越東線の利活用促進について検討しているところです。引き続き、地域公共交通の利用拡大を図りながら、その確保・維持に取り組んでまいります。
77	いわき	意見発表者	第5章 地域別の主要施策	少子化が進む中、小中学校の統廃合等により行政施設が遊休化していくことになるが、こうした施設をどう活用していくかが課題である。	県では、県立高校の統廃合に伴い、地域の賑わいや活力が低下することへの不安に配慮し、空き校舎や跡地の利活用を通じて市町村が思い描く姿の実現を後押しするための新たな支援策を設け、地元市町村と連携した取組を進めてまいります。
78	いわき	意見発表者	第5章 地域別の主要施策	アクアマリンパークの交流人口の回復に向け施策を行っていききたい。	アクアマリンパークにおける交流人口拡大に向け、引き続き地元と協働して取り組んでまいります。

No	地域	発言者	分野	意見等	県の方考え方
79	いわき	意見発表者	第5章 地域別の主要施策	小名浜港で水素、アンモニアの輸入や再生可能エネルギーの活用など脱炭素・脱石炭へのロードマップを早急につくらないと、国際港湾として太刀打ちできなくなるのではないかと。また、現在、石炭の運搬などに従事している労働者の雇用のシフトチェンジも必要であると考えます。	小名浜港関係者で構成する小名浜港脱炭素化推進協議会で協議しており、今年度の取組として、「港湾脱炭素化推進計画」を作成することとしています。また、新産業の創出や雇用の安定化に向けた取組を支援してまいります。
80	いわき	意見発表者	第5章 地域別の主要施策	小名浜道路の開通により、物流面で小名浜港の利用価値が高まることが期待され、新たなニーズや産業が進出してこられることも考えられるが、いわき市内の工業団地にも港湾用地にも空きがない。小名浜港や小名浜道路の利用価値を高めるためにも工業団地の整備が必要と考える。	小名浜道路が産業振興等に対する期待が大きいことは理解しており、早期完成に向け重点的に取り組んでまいります。
81	いわき	意見発表者	第5章 地域別の主要施策	小名浜の交流人口を回復するためにイオンモールが頑張っているが、周囲の半分が海であり、お客様を集める商圏としては、360度陸地である店舗より不利である。イオンモールを持続させて行くためには、小名浜道路の活用はもとより、いわきFCのスタジアム誘致が一つの材料となるのではないかと。	-
82	いわき	意見発表者	第5章 地域別の主要施策	建設業界の人手不足は深刻な状況になっている。地元の工業高校でも、土木科や建築科が1次募集で定員が埋まらなくなっている状況にある。一定の学力を有し、働く意欲のある方が業界に必要である。	将来の担い手が建設業界へ入職しやすくなるよう、ICT技術の活用、週休二日確保モデル工場の推進などの働き方改革や快適トイレなどの現場環境の改善に取り組んでまいります。
83	いわき	意見発表者	第5章 地域別の主要施策	福島県建設業協会いわき支部は26社の会員がいるが、隣の双葉郡内は建設業協会員がゼロの地域もあり、災害時の緊急対応が必要な場合には、エリアの枠を越えて応援に行く必要がある。 災害から地域を守り安心・安全を確保する事業者を確保していくためには、維持工事等の包括契約の促進が必要と考える。	包括維持管理委託は、受注者側にとっても労働の平準化、業務計画を立てやすくする等有効な手段ですので、建設業協会等と意見交換しながら制度を構築してまいります。
84	いわき	意見発表者	第5章 地域別の主要施策	クルーズ船によるインバウンドは、経済効果が非常に大きく、地域活性化のために重要な方策である。また、外国から来るお客様や高齢のお客様は、自家用車では来ないため、観光客を増やしていくためにも公共交通機関の整備は重要になってくると考える。	大型クルーズ船受入のための施設整備を進めているほか、いわき市などと連携しクルーズ船誘致に取り組んでまいります。また、少子高齢化の進行や車社会の進展等により、地域公共交通の利用者は減少しており、持続可能な地域公共交通の確保・維持や沿線自治体と連携したJR磐越東線の利活用促進について検討しているところです。引き続き、地域公共交通の利用拡大を図りながら、その確保・維持に取り組んでまいります。
85	いわき	意見発表者	第5章 地域別の主要施策	漁業は震災被害を最も強く受けた産業の一つで、生産インフラの復旧は進められたが、流通面で県産水産物に対する風評は深刻である。風評対策の取組として、県産水産物を「常盤もの」として売り出し、CM等によりPRすることでイメージアップの効果を得た。	風評対策としては、県産水産物の品質の高さや美味しさなどを消費者に伝えることが重要であることから、県では、TOKIOを起用したCMや著名人による産地訪問番組を作成し、魅力の訴求に努めております。引き続き、風評の払拭が図られるよう、県産水産物の魅力発信に取り組んでまいります。
86	いわき	意見発表者	第5章 地域別の主要施策	水産物の高付加価値化対策として、海水冷却装置やウニ貝焼き用の加工施設を整備した。品質に優れた「常盤もの」を提供することで、仲買人たちが「常盤もの」を消費者に売り込んでもらえると考えます。	御意見のとおり、県産水産物の流通拡大のためには、品質の向上が有効であることから、県では、「福島県産水産物競争力強化支援事業」や「水産業復興加速化総合対策事業」において、品質の向上に必要な機器類の整備や効果的な鮮度保持の取組を支援しております。今後も県産水産物の流通拡大が図られるよう支援してまいります。

No	地域	発言者	分野	意見等	県の考え方
87	いわき	意見発表者	第5章 地域別の主要施策	東京の会社の女性社長から、県内で女性の雇用を増やそうとしたときに、福島県人は消極的で、言われたこと以上のことをしないとショッキングなことを言われた。いわきアカデミア推進協議会では、いわき市から一度出た若者に地元の仕事の魅力を感じてもらい、戻ってくることを促すための取組等を進めている。そのなかでも、学生が地域の課題に取り組む実践型プログラムは非常に重要であると考えており、イノベーション人材を育てるような今後の取組の拡大を強く望む。	いわき地方振興局では、いわき市や商工会議所等と共にいわきアカデミア推進協議会に参画し、高校生を対象とした地元企業の訪問見学、小学生を対象とした市内企業を紹介する冊子の配布等によりキャリア教育を支援し、人材育成や若者の地域定着等に取り組んでおります。引き続き、関係団体と連携しながら、次世代を担う人材育成の取組を推進してまいります。
88	いわき	意見発表者	第5章 地域別の主要施策	創業後の事業者の5か年生存率、10か年生存率を調査し、どういった課題で閉業をしてしまったのか、その課題を解決する支援策を打ち出していただければありがたい。	「ふくしま創生総合戦略」において、「魅力的で安定した仕事をつくる」ことを基本目標に掲げており、起業・創業の立ち上げから創業期までの一体的な支援に取り組んでまいります。

令和5年度地域懇談会における主な意見と県の考え方

【テーマ2】 地方創生・人口減少に関する課題や必要な施策・取組の方向性について(総合計画第4章関係)

No	地域	発言者	分野	意見等	県の考え方
1	県北	意見発表者	第4章 政策分野別の主要施策 ひと	<p>高校生が、地域への魅力や地域に多様な生き方の選択肢があることをあまり知らずに、高校卒業のタイミングを迎え、出て行ってしまっている。 若者に将来戻ってきたくするような選択肢が地域にあることを知ってもらうことが大事。 地域の大人達と対話や活動を一緒にしながら、ライフキャリア教育をすることにより、若者が生き方のロールモデルを見つけていくようなことができれば良い。高校の地域探究授業にすごく可能性を感じている。</p>	<p>各県立高等学校では、総合的な探究の時間等において、地域課題探究活動を推進しております。地域社会で活躍されている方々や企業の皆様からの温かい御支援により、新たな地域の魅力を発掘し、社会貢献の意義を学んでおります。今後もキャリア教育と連動しながら活動を充実させ、社会を形成する一員としての資質・能力育成を図ってまいります。</p>
2	県北	意見発表者	第4章 政策分野別の主要施策 ひと	<p>小中学校の教育委員会と県の教育委員会の間で、切れ目ができてしまうため、ライフキャリア教育は、学校だけでできることには限りがある。 学校が地域に開かれる、地域が学校に開かれるよう、もっと社会教育に力を入れるべきではないか。</p>	<p>本県では、児童生徒の、学校、家庭及び地域での様々な学びを、新たな学習や生活への意欲、将来の生き方を考えること等につなげたいと考えております。そこで、県内の小学校、中学校、高等学校をつなぎ、12年間の見通しをもって、より効果的な児童生徒のキャリア形成を図っていくことを目的として「キャリア・パスポート」を活用しております。これからも児童生徒一人一人が、学校、家庭及び地域での学びを将来につなげることができるよう、キャリア教育の一層の推進に取り組んでまいります。 また、市町村と共に幅広い地域住民の参画を得て、地域全体で子どもたちの学びや成長を支えると共に「学校を核とした地域づくり」を目指して、地域と学校が相互にパートナーとして連携・協働して活動を行う地域学校協働活動を推進するなど社会教育の充実に努めています。</p>
3	県北	意見発表者	第4章 政策分野別の主要施策 ひと	<p>医療的ケア児の保護者が職場復帰をして仕事を続け、子育てしながらも、自分らしくいられる時間を作ることが必要。医療的ケアの必要な子どもは、日常的に命に関わるケアが求められ、保育園等に看護師の配置が無い場合、保護者が仕事復帰を諦めなければならないケースが多々ある。</p>	<p>令和3年9月に「医療的ケア児及びその家族に対する支援に関する法律」が施行されたことを踏まえ、令和4年6月1日、総合療育センター内に、新たに医療的ケア児支援センターを設置し、医療的ケア児及びその家族から寄せられる相談への対応、コーディネーター養成研修の実施、関係機関との連携強化などに取り組んでおり、また市町村に対し、保育所等で医療的ケアに従事する看護師等の配置に要する費用の補助を行っております。 今後も医療的ケア児の支援体制の更なる拡充を図ってまいります。</p>
4	県北	意見発表者	第4章 政策分野別の主要施策 ひと	<p>医療的ケア児の理解がなかなか浸透しておらず、県北圏域においても、保育所や学校でなかなか受け入れてもらえない状況。子どもを育てながら働きたいという希望を実現できるよう、受入体制を整え、安心して子どもを生み育てられる環境づくりをお願いしたい。</p>	<p>令和3年9月に「医療的ケア児及びその家族に対する支援に関する法律」が施行されたことを踏まえ、令和4年6月1日、総合療育センター内に、新たに医療的ケア児支援センターを設置し、医療的ケア児及びその家族から寄せられる相談への対応、コーディネーター養成研修の実施、関係機関との連携強化などに取り組んでおり、また保育所等における医療的ケア児の受入体制を整備するため、市町村に対し、看護師等の配置に要する費用の補助を行っているところであります。今後も医療的ケア児の支援体制の更なる拡充を図ってまいります。 県立特別支援学校においては、教育相談を実施し、児童生徒に必要な医療的ケアが、学校で実施できる体制整備に努めております。 また、高等学校においても、医療的ケア児に限らず、個に応じた指導を推進してまいります。</p>

No	地域	発言者	分野	意見等	県の考え方
5	県北	意見発表者	第4章 政策分野別の主要施策 ひと	<p>学びのセーフティネット(若者の自殺対策)が急務であり、適切な支援に繋げるため、メンタルヘルスへの理解、早期発見と適切な対処方法を向上させるスキル習得や、心の病に対する偏見を減らすため、小学校課程から心の教育や援助希求行動を高めるような仕掛けづくりなどが重要。</p> <p>セーフティネットとして、精神障がい者に対する社会的な構図を改善していくための仕掛け作りも必要。</p>	<p>県では、精神障がい者が住み慣れた地域を拠点として、本人の意向に即した充実した生活が送れるよう、関係機関が連携し精神障がいにも対応した地域包括ケアシステムの構築に向け、取組を行っております。</p>
6	県北	意見発表者	第4章 政策分野別の主要施策 暮らし	<p>保育・福祉・保健分野も人材不足は深刻であり、人材不足に対する仕掛けが必要。農福連携や工業と福祉との連携など産業を包括的に考えることで人材不足を補えれば良いと考える。</p>	<p>保育人材の確保については、保育士・保育所支援センターによる潜在保育士の再就職支援のほか、修学資金の貸付、福祉・雇用関係機関と連携した就職説明会の開催、人材の確保・定着を図るための各種セミナーや研修会等の開催、県外から移住・就職した保育士への助成など、様々な事業を展開しています。</p> <p>介護人材の確保については、多様な働き方を進めるため、ワークライフバランスの推進やプライベートの充実につながる週休三日制導入支援などを行っております。引き続き、いただいた御意見等を踏まえながら、介護人材の確保にしっかりと取り組んでまいります。</p> <p>医療人材の確保については、看護職員、理学療法士等、医療従事者を目指す学生に対する修学資金の貸与などの取組を進めることにより、医療に従事する人材の確保を図っております。引き続き、いただいた御意見等を踏まえながら、医療人材の確保にしっかりと取り組んでまいります。</p> <p>農福連携について、庁内関係部局との連携を強化するため、県農業労働力確保・調整協議会において農業側と福祉側の構成員間で情報交換を行っております。また、農作業の内容や手順を記載した作業分解シートの作成や農業現場で人手が不足する作業内容等の情報提供により、農業側と福祉側の相互理解を促進し、生産現場での人手の確保や障がい者の農業分野での就労を推進してまいります。</p>
7	県北	意見発表者	第4章 政策分野別の主要施策 ひと	<p>県立ふたば未来学園や大熊町立学び舎ゆめの森での最先端教育など、被災地で得られた仕組みや知見を12市町村以外でも展開できると良い。12市町村以外でも、大震災のあった福島県だからこそ得られた知見を活かしていければ、大変なことを乗り越えた結果、新しい未来がまた開けてきたという大きなストーリーができそう。</p>	<p>福島イノベーション・コースト構想を担う人材の育成を目指し、全県下において小中学校段階から構想を牽引するトップリーダーの育成や、産業基盤を担う人材の育成に力を入れてまいります。また、震災を経験した本県だからこそ、命の大切さや郷土を愛する心を育むなど、道徳学習の充実も図ってまいります。</p> <p>双葉郡の各校では、地域を題材に取り組む探究的な学習「ふるさと創造学」や、ふたば未来学園では、学校設定科目「地域創造と人間生活」等の特色ある取組を行っており、こうしたことを学校ホームページ等で周知等していきます。</p>
8	県北	意見発表者	第4章 政策分野別の主要施策 ひと	<p>本県でも移住定住の取組は多いが、移住に重きが置かれていると感じる。定住(定着)支援の取組も重要。</p> <p>市町村ごとの取組と合わせて、振興局単位の広域な取組として、(県北地域で実施している)定住支援の取組を広げていってほしい。</p>	<p>移住後の孤立化を防ぎ地域への定着をサポートするため、移住者交流会の開催や移住者ネットワークの運営などに取り組んでおります。各地域の取組を共有し、市町村との連携を更に深めながら移住後の定着に向けた取組を支援してまいります。</p>

No	地域	発言者	分野	意見等	県の考え方
9	県北	意見発表者	第4章 政策分野別の主要施策 暮らし	産院が都市部に集中し、子どもが産めない地域が出てきている。少子化が課題であるにもかかわらず、産院が閉まれば改善されない。地域で安心して出産できることが大切。	県立医科大学や県内各地域の周産期医療施設との役割分担と連携強化により、安全な出産を支える体制の構築を進めています。 また、地域の分娩施設の整備を図るため、分娩施設への補助事業により、地域で安心して産むことができる環境づくりに引き続き取り組んでまいります。 産科医の確保については、市町村や医療機関など地域の意見を踏まえながら、次期医師確保計画において産科医の目標設定を行うとともに、修学資金貸与やふくしま子ども・女性医療支援センターとの連携により必要な人材を確保してまいります。
10	県北	意見発表者	第4章 政策分野別の主要施策 ひと	移住定住の目標(1,450世帯)達成には、かなりの努力が必要。かつては定年帰農や、夫婦での田舎暮らしの希望が多かったが、今は30、40代の方が子ども連れでの新規就農や田舎暮らしをして、子どもをのびのび育てるような環境づくりをしたいという希望が多い。 移住定住は情報発信も大切だが、ターゲットを決めて、何を求めて田舎暮らしや新規就農をしたいのかという対話をきちんとした上での呼び込みが必要であり定住につながる。	テレワークなど柔軟な働き方の普及や、コロナ禍等によるライフスタイル・価値観の多様化により、移住希望者のニーズも多岐にわたっていることから、県内外に設置した移住相談窓口における丁寧な相談対応を通じて、移住を希望される一人ひとりのニーズを踏まえた伴走支援に取り組んでおります。なお、令和4年度の移住実績は1,964世帯と過去最多を更新し、目標値である1,450世帯を達成しております。 また、新規就農希望者については、福島県農業経営・就農支援センターが関係団体と一体となって丁寧に相談対応に当たり、本県への就農を支援してまいります。
11	県北	意見発表者	第4章 政策分野別の主要施策 しごと	食農教育の一つとして、県が旗振り役となって教育旅行を呼び込み、受入先がある地域への割り振りや温泉街とのタイアップなどをしながら受け入れてほしい。	県ではグリーン・ツーリズムとして、平成20年度に県域団体である福島県ふるさと子ども夢学校推進協議会を設立してから、教育旅行を中心に受入を進めております。 農泊の視点となりますが、県内各地域の農山漁村に滞在し、地域の人々との交流を楽しんでいただけるよう引き続き取り組んでまいります。 また、県内合宿関連施設の広域連携を促進し、受入体制や誘致を強化するため、「合宿の里ふくしま復興事業」を行い、さらなる教育旅行の推進に努めてまいります。
12	県北	意見発表者	第4章 政策分野別の主要施策 ひと	小さい頃から福島の良さを伝えていかないと、高校生、大学生になった時に福島の良さを訴えても響かないし、福島に戻らないと思う。教育を受けてこれから働く若い人たちがどんどんいなくなるのは問題なので考えてほしい。	第7次福島県総合教育計画において、学びの方向性として「福島ならではの教育の充実を目指しております。福島で学び、福島に誇りを持つことができる「福島を生きる」教育の充実に向け、様々な施策を推進してまいります。
13	県北	意見発表者	第4章 政策分野別の主要施策 暮らし	中山間地域への移住促進により、20～30年後の地域には移住世帯しかいなくなり、数世帯のためにインフラを維持し続けるのか、という問題が起きると思う。地域の町内会・消防団などで移住者への負担が数年～十数年以内に出てくるのではないかと。 このため、コンパクトシティの取組も進めていくべきだと思う。集落の世代交代ができるほどの移住者を連れてくるのは不可能ではないかと。	過疎・中山間地域において、将来にわたり住民が暮らし続けることができるよう市町村と連携しながら、複数の集落生活圏を維持するための生活サービス機能を担う「小さな拠点」の形成に向けた取組や、複数の集落による広域ネットワーク型生活圏の形成を支援しております。 また、コンパクトなまちづくりの取組の一つとして、市町村が立地適正化計画を策定し、居住機能の誘導や医療・福祉・商業、公共施設等の都市機能を誘導し集約する区域を設定することができます。県は制度の周知や助言等により計画作成の促進を図っています。

No	地域	発言者	分野	意見等	県の考え方
14	県北	意見発表者	第4章 政策分野別の主要施策 ひと	<p>子どもの教育環境を優先させたいと東京へUターンする方もいる。何を優先させたいのかは、各家庭で異なると思う。</p> <p>東京と同じような教育を福島で実現しようとしても、高校や大学にその受け皿は少なく、そのような企業もなければ、結局外に行ってしまう。</p> <p>探究学習を小中高と幅広く行い、地域のこと・人を子どもの頃から知ることにより、将来的に福島に戻ることが選択肢に入ることが第一だと思う。</p>	<p>本県では「福島の創造的復興教育の核として、ふくしまの未来を創る人材を育成する」ためにキャリア教育を推進しております。県内の小・中学校は各校の特色を生かして教育活動を行っておりますが、中学校では「その地域ならではの」の企業や諸機関、店舗等において、職業体験活動を実施しております。児童生徒一人一人が、この福島で夢を実現することができるよう、これからもキャリア教育の一層の推進に取り組んでまいります。</p> <p>高校教育においては、生徒の可能性を考慮して、進路指導とともに探究活動に励んでおります。世代や立場の異なる方々との協働学習も推進しております。キャリア教育の考え方を基に、生徒にとって価値のある人生を設計できるよう、支援してまいります。</p>
15	県北	審議会委員	第4章 政策分野別の主要施策 しごと	<p>安定した仕事があつてこそ、一人一人が輝ける、暮らしの豊かさを実感できるといふことにつながってくると思う。魅力的で安定した仕事づくりが基本。</p> <p>また、魅力ある農林水産物の展開にも力を入れてほしい。</p>	<p>県内企業の技術力・開発力の強化に向けた独自技術の活用支援による本県産業の高度化・高付加価値化や福島イノベーション・コースト構想の重点分野を軸とした技術開発・実用化の促進、販路開拓の支援を通じた産業集積・振興を図ることにより、魅力的で安定的な仕事づくりに取り組んでおります。</p> <p>ロボット・ドローン分野においては、浜通り地域を中心に先進的な技術・製品を開発する企業が進出しており、工場や開発拠点を設置する事例が出始めています。今後も県内に波及させながら、関連産業の集積を推進し、地元からの雇用が促進されるよう取り組んでまいります。</p> <p>魅力ある農林水産物の展開については重要と考えております。そのため、県産農林水産物のブランド力の強化に向け、令和4年度に「福島県農林水産物ブランド力強化推進方針」を策定しました。この方針に基づき、福島ならではの取組によるブランド力を強化し、もうかる・誇れる農林水産物の実現を目指します。</p>
16	県中	意見発表者	第4章 政策分野別の主要施策 ひと	<p>地方創生・人口減少に関する課題や取組に関して、もう少し子供たちに視点を当てて、輝ける子供たちをたくさんつくりたいと考えている。</p>	<p>子どもの権利条約の趣旨を踏まえ、意見表明の機会を提供するなど、子どもの意識・立場に立ち「子どもの視点」を重視した対応を推進するとともに、将来に夢や希望を抱くことができるよう支援しているところです。</p>
17	県中	意見発表者	第4章 政策分野別の主要施策 しごと	<p>福島にいながら所得が高いというのは、DX人材を育成することで叶うと思う。「転職なき移住」もDX人材では可能であると思うので、そこを進めていきたいと考えている。</p>	—
18	県中	意見発表者	第4章 政策分野別の主要施策 しごと	<p>全ての製品に関わる半導体産業は、福島県が中心エリアになってほしいという思いがある。</p>	<p>半導体産業につきましては、裾野が広く、経済波及効果が高いことから、重点的に誘致に努めております。今後とも、企業立地セミナーの開催などを通じ、本県の充実した支援制度や最先端の研究開発拠点等、立地環境の優位性のPRを行い、積極的な誘致に取り組んでまいります。</p>
19	県中	意見発表者	第4章 政策分野別の主要施策 ひと	<p>他地域から人を呼び込んで、そのコミュニティーで福島の良いところを発信してもらい、長く続けていけば定着につながると思う。</p>	<p>県外在住者を対象に、地域のキーパーソンとの交流等を通じて、地域の産品や取組にふれ、本県との継続的な関わりを生み出す地域体験型ワーケーションツアー等を実施し、ツアー参加者によるSNSや口コミ等での情報発信に繋げております。</p> <p>また、効果や課題等の分析結果を市町村等と共有し、移住者の更なる呼び込みや定着に繋げてまいります。</p>
20	県中	意見発表者	第4章 政策分野別の主要施策 ひと	<p>広報戦略のアップデートが必要。県の役割としてプロデュース力は大事。県の強みが何なのか見つけて、それをどう磨けば、どう発信すれば地方創生につながるのかというところを意識して施策を考える必要がある。</p>	<p>県のプロデュース力の向上や強みを発見するためには、自治体だけでなく県内外の多様な意見を取り入れながら、情報発信を実施する必要があります。今後も、「ふくしま創生総合戦略」へ基本理念として定められた「福島ならではの」の地方創生の推進に向け、多様な意見を参考にしつつ、情報発信を継続してまいります。</p>

No	地域	発言者	分野	意見等	県の考え方
21	県中	意見発表者	第4章 政策分野別の主要施策 ひと	福島県から一度、外に出てしまうと、地元の情報がなかなか入ってこない現状がある。そこにいかに今の地元の情報をアップデートしてあげられるかが大切。	県内から県外へ移住した方へ向けた情報発信については、広報誌や各種SNSを活用して実施しております。県外移住者にとって、新たな情報を取得していただくために効果的な情報発信とは何かを検証しながら、取組を継続してまいります。
22	県中	意見発表者	第2章 福島県を取り巻く現状と課題	私たち自身が今までの価値観やルール、常識と想っていたことをシフトチェンジする必要がある。今までだと人口の数とか、GDPとか成長することが良いという価値観だったが、別の切り口で見れる指標があったらいいと思う。 今は様々なビックデータがとれるので、例えばお隣から野菜をもらった回数割合とか、一人一人の幸福度が測れるような指標のようなものを打ち出して、福島県「幸福度日本一」とか、そういうふう発信できればよいと思う。	現在、国においてもWell-being(※)指標の導入や活用について検討している段階であると聞いています。国の動向を注視しつつ、いただいた御意見については今後の参考とさせていただきます。 (※)身体的・精神的・社会的に良好な状態(幸福度、満足度)
23	県中	意見発表者	第4章 政策分野別の主要施策 ひと	過疎地域では、子どもたちが経験できる場所や、モノ・コトがすごく少ないと感じている。経験してきた経験値によって進路選択にも大きく影響していると感じている。小さな頃から、いろいろな経験をさせてあげられるような場所づくり、より多くの学びの場を小さいエリアでもつくれるように県としてサポートをしていただきたいと思う。	県教委は各市町村の実態に応じ、地域住民の参画を得て、放課後等に全ての児童を対象にして行う学習や体験、交流といった多様な活動を行う放課後子ども教室を実施するなど子どもたちの学びの場や機会を提供しております。
24	県中	意見発表者	第4章 政策分野別の主要施策 ひと	新しい人の流れ、地域における受入体制の整備という点で事前研修や勉強会、人材の育成など、スムーズに地域と外の人たちがつながられるような支援をお願いしたい。	各地方振興局に配置した移住コーディネーターによる地域キーパーソンへの掘り起こしを行い、移住希望者や地域に関心のある県外在住者とつなげているほか、都内の移住相談窓口において市町村担当者による移住相談会の開催を通じて、市町村における相談対応等のノウハウ習得を支援しております。 引き続き、市町村との連携を密に地域における受入体制整備を促進してまいります。
25	県中	意見発表者	第4章 政策分野別の主要施策 ひと	18歳の就職や進学については、しっかりとサポートをしているが、社会人になったり、ひとり立ちをした後までは、先生も周囲の大人もなかなか介入しにくく、高卒の転職率も高くなっているのではないかと。そういう子供たちに向けての情報発信も考えていければと思う。	高校教育課では、生徒の発達段階に応じたキャリア教育を推進するために、地域の人材や関係機関と連携した人材育成事業を実施しております。 また、各学校におけるインターンシップは、地域企業での就業体験であることから、就職を希望する生徒の地元企業の理解促進を図るとともに、将来、大学等に進学し進路選択を考えたときに、Uターンなどの参考になるものとなります。 こうしたキャリア教育を通して、働くことの意義を考えさせ、望ましい職業観・勤労観を育み、ミスマッチを防ぐとともに、生徒が希望する業種への就職の実現を図ってまいります。
26	県中	意見発表者	第4章 政策分野別の主要施策 ひと	地域サロンの参加者が年々減っている。コロナ禍により運動する機会の減少、活動機会が減って足腰が弱くなり、転んで寝たきりなどになるケースもある。 地域サロンに来ることができない高齢者にどうアプローチをしていったらいいかが課題。	高齢者の社会活動促進として、老人クラブが行う事業の支援等を行っております。 老人クラブでは、高齢者の通いの場の開催、スポーツや文化活動、子どもや高齢者への見守り・生活支援、世代間交流、交通安全活動、悪徳商法の被害防止に関する活動等を行っており、高齢者の閉じこもり予防や健康の維持、次世代の育成支援、地域の再構築や地域の支え合いの輪を広げるなどの効果が期待されております。 また、市町村が実施している専門職や生活支援コーディネーターなど、関係者と連携した地域の課題解決に向けた取組を支援しています。 引き続き、関係機関と連携しながら、老人クラブへの加入促進及び高齢者の生きがいづくりや健康づくりの推進、高齢者の自立支援・重度化防止に取り組んでまいります。

No	地域	発言者	分野	意見等	県の考え方
27	県中	意見発表者	第4章 政策分野別の主要施策 しごと	町内ではスーパーの宅配事業はあるが、移動販売は行っていない。移動販売があれば、そこに買い物に来る人が増えて、そこで交流が生まれると思う。	県では商店街組織等が行う移動販売等の買い物困難者に向けた取組の支援を行っております。
28	県中	意見発表者	第4章 政策分野別の主要施策 ひと	移住施策の中では、定住が大事。移住者の就職先や起業についてのサポートをいただけるといい。	移住ポータルサイト「ふくしまぐらし。」において、就職や就農、起業に関する情報発信を行っているほか、県内外の移住相談窓口からふるさと福島就職情報センター等の専門相談窓口につなぐなど、転職や起業を希望される移住希望者のサポートに取り組んでおります。 県内で起業しようとする県外在住者向けに、首都圏で関係機関等と連携したイベントや相談会を開催することにより、意欲ある起業家の発掘・呼び込みを行っております。 また、創業支援ウェブサイトによる各種事業の一元発信、県内創業支援機関のネットワーク強化及び支援人材のスキル向上を始め、創業資金の補助等を行っております。
29	県中	意見発表者	第4章 政策分野別の主要施策 暮らし	空き家問題について、家主の方が高齢になったり、施設に入所したりとかで、手をつけることができていない。高齢者の方が元気なうちに、そういう手続きの方法を伝える相談窓口があったらいい。	空き家問題については、空家等対策特別措置法により市町村が地域の実情に応じて対策を実施しており、県が設置する連絡調整会議等において必要な情報提供や技術的助言を行っています。空き家の発生等を防止するために、所有者が行うべき手続きや相談先などの情報を市町村等へ提供していきます。
30	県中	意見発表者	第4章 政策分野別の主要施策 ひと	お試し体験住宅だけでなく、子どもがいる世帯だと保育園留学も一緒に行うことで、地域との関係づくりを深めることにより、移住のハードルが下がるのではないかと。	モデル地域に選定した市町村と連携して、地域における生活体験の機会を提供し、住民との交流や行事等への参加を通じて地域とのつながり創出や理解を深め、将来的な移住を後押しするお試し移住の促進に取り組んでおります。今後も市町村との連携を深め、多様な体験メニューについての検討を進めてまいります。 また、一時預かり事業の制度を利用し、いわゆる「保育園留学」を実施する市町村へ支援しております。
31	県中	審議会委員	第4章 政策分野別の主要施策 しごと	企業がほしい人材、労働者の働きたい場所のマッチングが合っていない。福島にいながら稼げる就業場所、DXによる稼ぎ方については、関係人口や定住に向けては大切。	企業と求職者のマッチングにつきましては、合同企業説明会の開催のほか、県内外に設置した就職相談窓口におけるきめ細かな就職相談や職業紹介等により、双方のニーズに応じた支援を行っております。
32	県中	審議会委員	第4章 政策分野別の主要施策 暮らし	高校生や大学生がやっているコミュニティーがどんどん増えると、人が入ってくるきっかけになるのではないかと思います。	-
33	県中	審議会委員	第4章 政策分野別の主要施策 しごと	県外に出ていった人に情報をアップデートして伝え続けるというところで、例えば高校を卒業する時に県のSNSのQRコードを高校生に配って、情報が欲しい人だけでも緩くつながり、情報もそこでアップデートしていけるのではないかと思います。	県外に進学した学生等への県内企業情報の発信につきましては、県が運営する求人情報サイトやLINEを活用した情報発信に加え、今年度から県内企業の魅力を若者世代へ伝えるプロジェクトをスタートさせたところであり、SNSやウェブ動画等様々な広報媒体を活用し、県内企業や福島で働く魅力をより効果的に発信してまいります。 今後も積極的にU・Iターン情報(県内の企業情報、福島の魅力等)を発信し、進学で福島から離れても福島と繋がりを持てるよう支援してまいります。
34	県中	審議会委員	第4章 政策分野別の主要施策 しごと	企業側と求職者側双方のニーズのミスマッチがあると思う。個人の能力をいかして働くことができるようなマッチングができるといい。	企業と求職者のマッチングにつきましては、合同企業説明会の開催のほか、県内外に設置した就職相談窓口におけるきめ細かな就職相談や職業紹介等により、双方のニーズに応じた支援を行っております。

No	地域	発言者	分野	意見等	県の考え方
35	県中	審議会委員	第4章 政策分野別の主要施策 ひと	小学校の学童クラブで、地域の人を呼んで皆で交流するような学童クラブがあるといいと思う。	放課後児童クラブでは、地域の実情に応じて放課後子ども教室と連携し、地域の方との交流等の多様な体験・活動を行っているところです。
36	県中	審議会委員	第4章 政策分野別の主要施策 ひと	移住者という言葉にこだわりすぎない方がいい。転入者を増やすというところを目標にすると施策も広がっていくのではないかと。	御意見のとおり、社会増対策は進学や就職、結婚、出産など個々人の人生の節目節目での選択と深い関わりがあるため、様々な機会を捉え、県民の皆様の御意見を伺いながら、関係部局と連携して取組を進めていく必要があると考えております。
37	県南	意見発表者	第4章 政策分野別の主要施策 ひと	過疎・中山間地域の人口減少はどんどん進んでいる。一番ネックになっているのは「進学」だと感じている。高校や高等教育機関が近隣地域にないため、人口が流出しているという現状がある。進学に必要な塾も近くにないといった、教育格差を埋めていく必要があるのではないかと。	急激に進行する少子化の中にあっても、子どもたちにより良い教育環境を提供できるよう、統合等の再編整備を進めるとともに、全ての県立高等学校を6つの学校群のいずれかに位置づけながら教育内容の特色化・魅力化を図ることとしております。 県南地区における進学指導につきましては、白河高校や白河旭高校を進学指導重点校とするとともに、修明高校をキャリア指導推進校として大学進学から就職まで幅広い進路希望に対応する学校として魅力化に一層取り組んでまいります。 また、各校においても、育成したい生徒像を明確にした上で、1人1台端末も活用した個に応じた指導を推進してまいります。
38	県南	意見発表者	第4章 政策分野別の主要施策 しごと	世界的には人口が増加しているのに、日本は人口が減少している。当然消費者人口も減っていくので、農業をはじめとした各種生産者は海外の市場にも目を向けていく必要がある。	海外における県産品の販路拡大については、輸出先国の経済力や文化、消費者の趣向、輸送距離などを総合的に考慮し、農産物や加工品など品目ごとに重点的に取り組む国・地域を定め、戦略的に推進してまいります。
39	県南	意見発表者	第4章 政策分野別の主要施策 しごと	子どもを複数人産んだら助成金といった仕組みに違和感を感じている。お金が欲しくて子どもを産む人はいない。それよりも子どもの就職先を地域内に確保することの方が重要。事業規模は小さくてもいいので、多様性のある様々な職種の仕事を確保することが、地域外への流出を防ぐことにもつながる。	県内企業の人材確保につきましては、合同企業説明会の開催や就職支援窓口での情報の発信に加え、今年度から県内企業の魅力を若者世代へ伝えるプロジェクトをスタートさせたところであり、SNSやウェブ動画等の様々な広報媒体を活用し、福島で働く魅力を伝えるとともに、高校生とその保護者を対象とした企業説明会や、県外からの還流を促す企業体験ツアーなど、様々な取組を総合的に展開しながら、若者の県内への定着・還流を推進してまいります。
40	県南	意見発表者	第4章 政策分野別の主要施策 ひと	全国で交流人口の取り合いになっている。数ある中から福島県を選んでもらうためには、単なる観光で終わる交流ではなく、例えば酪農の手伝いを一週間しつつ、空いた時間でテレワークをしてもらうなどの工夫が必要。そういった交流の形であれば、都内に帰った後、ニュースで牛乳廃棄の問題が出たときに福島県を思い出してもらえる。人と人がつながる交流が大事。あとは、過ごしやすい時季だけ福島県に滞在してもらうなど、そういった関係人口を受け入れる地域の環境づくりも重要。	県外在住者を対象に、地域のキーパーソンとの交流等を通じて、地域の産品や取組に触れる地域体験型ワーケーションツアーの実施や、時期や場所を任意に設定できるテレワーク体験を支援する補助金により、地域と継続的につながる機会を提供し、関係人口の創出につなげております。 また、効果や課題等の分析結果を市町村等と共有し、関係人口の更なる呼び込みに向けた地域の受入環境の整備促進に繋げてまいります。
41	県南	意見発表者	第4章 政策分野別の主要施策 ひと	首都圏の家族が県内に来た際に、親はテレワーク等で仕事を継続して、子どもは転校手続なしで一定期間、小中学校に通えるなどそういった仕組みが作れないか。そういった取組を展開すれば、その家族にとって福島県が第2のふるさとなるのではないかと。	保護者が他の市町村の学校に就学させようとする場合、住所の存する市町村教育委員会との協議に基づき、他の市町村の教育委員会が受け入れを承諾した場合は、就学すべき学校を変更することが可能です(学校教育法施行令第9条)。 「地方移住等に伴う区域外就学制度の活用について(通知)」(文科省 平成29年7月26日)の中に、地方への一時的な移住や二地域居住が、区域外就学制度を活用できる例として例示されております。教育上の影響等に留意しつつ、当該市町村と相談しながら、本制度を活用することもできます。

No	地域	発言者	分野	意見等	県の考え方
42	県南	意見発表者	第4章 政策分野別の主要施策 ひと	子育てに関しては、地域でのコミュニティづくりが希薄になってきている。それに伴い、若い世代は結婚や子育てのメリットが感じづらくなっているのではないかと。また、仕事との両立も課題であり、キャリアを見せながらの子育ては特に困難である。児童クラブも4年生までしか預けられない。	地域ぐるみでの子育て支援を推進していくため、世代間交流の取組や、6歳未満の子どもがいる家庭を対象に、子育て経験者による相談や家事・育児支援を行うホームスタート(家庭訪問型の子育て支援)を実施しています。 また、放課後児童クラブについては、待機児童解消に向け、引き続き施設整備の補助や放課後児童支援員の認定研修を行ってまいります。
43	県南	意見発表者	第4章 政策分野別の主要施策 暮らし	子どもの年齢が5歳離れると、その親の世代の考え方や価値観が大きく違ってくる。自分の子どもへ医療・介護の専門職への就職を勧める方もいるが、看護師や理学療法士は地域によっては数が足りているという現状もある。医療・介護の現場は保険制度で回っており、専門職が増えたからといって収入が増える訳ではないため、成果報酬といった仕組みも必要だと最近感じている。	安定的に医療が提供できるよう、医療従事者を目指す学生に対して修学資金を貸与するなど、看護師や理学療法士等、医療従事者の確保に取り組むとともに、医療の現場で働く方々の働きやすい環境整備に努めてまいります。 また、介護職員については人材不足が深刻な地域もあり、人材確保を図るため、処遇改善のための適切な制度改善について国に要望してまいります。
44	県南	意見発表者	第4章 政策分野別の主要施策 しごと	子どものUターンについて、親同士で考える場があるといい。また、働くお母さんを支援する事業が、官民間問わず県内でも広がることを期待している。	子どものUターン就職の促進につきましては、就職支援協定を締結している首都圏大学等の保護者懇談会において、県内の企業情報や就職支援事業等の説明を行っております。 令和4年4月より段階的に施行されております改正育児・介護休業法について、福島労働局等の関係機関と連携して県内企業への周知に努めるほか、女性が働きやすい職場環境づくりに向け、経営者の意識改革を促す講座の開催や働く女性を積極的に支援する企業の認証等に取り組んでまいりました。さらに今年度からは、女性の積極採用や非正規労働者の正規雇用への転換などに取り組む企業への奨励金により取組を後押ししているところであり、引き続き仕事と生活の調和に取り組む企業を支援し、女性が働きやすい職場環境づくりをしっかりと進めてまいります。
45	県南	意見発表者	第4章 政策分野別の主要施策 しごと	子どもが帰ってくる環境を整えるためには、雇用を確保しなければならない。適正な賃金や福利厚生を用意するのは事業者の責務だと感じている。その責務を果たすためには、販路の確保が重要であり、国内の展示会出展に対する県の支援は非常に助かっている。	-
46	県南	審議会委員	第4章 政策分野別の主要施策 しごと	観光に関しては、単一の地域だけの取組では限界がある。例えば、甲子道路は南会津と県南をつないでいるため、両地域の連携が必要である。また、県境を越えた茨城県などとの連携も同様である。 農商工連携も重要であり、隣県の山形県では成果が上がっているようだ。	県では新潟県・山形県及び各県の観光協会等と連携し三県観光連携促進会議を立ち上げ、観光周遊ルートの形成や魅力ある旅行商品の造成など、官民が一体となった取り組みを展開しております。 また、東京を起点に、本県・茨城県・栃木県の4都県を結ぶ広域周遊ルートであるダイヤモンドルートを設定し、首都圏からの誘客促進に取り組むなど、引き続き、周辺地域と連携した観光振興に取り組んでまいります。 農商工連携については、令和元年度に策定した「第3期ふくしま地域産業6次化戦略」の実現に向けて、「ふくしま6次化創業塾」による6次化人材の育成、「ふくしま地域産業6次化サポートセンター」の設置による相談体制や伴走支援体制の整備、県統一ブランド「ふくしま満天堂」による商品開発や販路拡大支援など、6次産業化の推進に積極的に取り組んでまいります。

No	地域	発言者	分野	意見等	県の考え方
47	県南	審議会委員	第6章 計画の推進のために	<p>総合計画と実情がズレていることを認識するべき。また、この懇談会の場においても、人と人との関係づくりが重要との意見が多数出ているが、「人」に関わる仕事をする方の地位や待遇の向上が必要ではないか。例えば地域おこし協力隊は年収200万程度で、県内に来てくれている状況。これまでの価値観ややり方を転換していかなければ、総合計画の指標などは達成できないのではないかと。</p> <p>なお、こういう場において、行政側の職員が男性だけという状況も変えていく必要がある</p>	<p>総合計画の策定に当たっては、こどもを含めた幅広い世代と幅広い分野の方の御意見を伺ってまいりましたが、策定後も福島県沖地震や物価高など、本県を取り巻く情勢は大きく変化していることから、進行管理の中で状況を分析して事業の見直しを毎年行いながら、本県の実情に沿った取組を進めてまいります。</p> <p>男女共同参画社会の実現に向け、意思決定過程への女性参画の拡大に関する取組を進めていく必要があります。このため、県では審議会等の委員選任の際に担当課が事前にチェックを行うほか、必要に応じて女性人材の紹介を行うなど、施策等の意思決定過程における女性委員の登用促進に取り組んでいます。</p> <p>また、行政側の会議の出席者が男性職員だけという点に関しては、女性職員の出席を積極的に検討し、多様な意見が出やすい会議になるよう環境づくりを工夫してまいります。</p>
48	県南	審議会委員	第4章 政策分野別の主要施策 暮らし	<p>地域づくりには「伴走支援」という視点が必要。分野毎に偏りがあって、農業関係は手厚い印象を受ける。また、サポート事業補助金については、前から地域づくりに取り組んでいる団体だけではなく、今まで地域づくりに取り組んでこなかった地区が初めて取り組むものなど、新たなチャレンジを後押しするよう配慮願いたい。</p> <p>そして、地域づくりには、県外の関係人口だけではなく、地域内関係人口といった考え方も重要である。</p>	<p>サポート事業を通じて住民が主役の個性と魅力にあふれる地域づくりの取組を支援しており、各地方振興局において事業計画の磨き上げに関する助言を行うなど、新たなチャレンジを後押ししております。</p> <p>また、採択事業の中には、地域内における関係人口の創出につながっている多くの事例があります。</p>
49	会津	意見発表者	第4章 政策分野別の主要施策 ひと	<p>3歳未満の子どもの預ける時の費用負担が非常に大きい。子どもを預けて働きに出たとして、収支のバランスを考えると、仕事を辞めるか休むという選択をせざるを得ない親が多いのではないかと。</p> <p>子育て世代への金銭面だけでなくアプローチがあると良い。出産された方の職場復帰を早められるような仕組みを行政として提案いただくと企業側も産休などに対して前向きになり、非常に子育てしやすくなるのかと思う。</p>	<p>本県においては、第3子以降の3歳未満児の保育料を軽減する市町村に対し、その経費の一部を補助することにより、多子世帯への経済的な支援を行っております。</p>
50	会津	意見発表者	第4章 政策分野別の主要施策 しごと	<p>会津の平均賃金を考えると、子ども達に充てるお金は無い。また、共働きとならざるを得ないので子ども達に充てる時間も無いため、子供をあきらめるという選択が出てきてしまう。</p>	<p>仕事と育児の両立につきましては、令和4年4月より段階的に施行されております改正育児・介護休業法について、福島労働局等の関係機関と連携して県内企業への周知に努めるほか、仕事と家庭の両立に取り組む企業を支援するため、男性の育児休業や長時間労働是正等を対象とする奨励金を拡充して周知を図っているところであり、引き続き、ワーク・ライフ・バランスの推進に取り組んでまいります。</p>
51	会津	意見発表者	第4章 政策分野別の主要施策 しごと	<p>会津大学は新聞にも載るような非常に大きな研究課題に取り組んでいる。地元で会津大学がどうしているか、ということを地域の人々が理解していない。DXは、国を挙げて推進しているところであり、会津大学は会津地方だけではなく福島県に対しても、大きな影響を与える研究ができる大学なので、それを生かせるような施策があれば良い。</p>	<p>御意見ありがとうございます。</p> <p>会津大学では、研究内容等をホームページで積極的に紹介するとともに、研究内容を簡単にまとめた冊子(シーズ集)を配付しております。地域の方々の理解が進むように、今後とも、会津大学を支援してまいります。DX化の推進に向け、県は会津大学との連携を積極的に進めてまいります。</p>

No	地域	発言者	分野	意見等	県の考え方
52	会津	意見発表者	第4章 政策分野別の主要施策 暮らし	<p>「ふくしまプロスポーツ地域活力創出事業」が非常に良いと思う。例えば公立高校や中学校の先生の教員の採用の方法で、プロチームの選手や選手だった方が指導に来られるような枠を設けたり、先生になってもらったり、という取組が活性化すると良い。</p> <p>教員採用試験を変えて、スポーツ推進枠のような形でプロスポーツを目指す学校に優秀な先生やコーチを入れていくような活動をしている地域があると聞いており、活躍している県内出身や県とつながりのある選手と地域がつながっていくことに、大きな意味があると思う。</p>	<p>県では、プロスポーツチームの応援機運醸成や子どもたちの夢応援を目的に、県民とチームがふれあう交流会や子どもたちに向けたスポーツ・運動教室を実施しております。</p> <p>今後も、こうした事業を通じて、プロスポーツチームと地域との接点を増やしながらか、地域との結びつきをさらに強めてまいります。</p> <p>また、公立学校教員採用候補者選考試験において、国際規模の大会に出場経験のある方等を登用する特別選考Ⅲ(スポーツ・芸術等特別選考)を設けるなど、福島に誇りを持ち、「福島を生きる」教育を実践する教員の採用に努めてまいります。</p>
53	会津	意見発表者	第4章 政策分野別の主要施策 しごと	<p>会津若松市内のインバウンドの観光客が非常に増えている。台湾からの直通便が新潟空港に入るようになり、新潟空港と会津若松市の間に只見線が再開通した。福島に興味を持って来ている人の新潟空港の利用率が高いのであれば、県間の連携を図り、福島空港を利用して受け入れる体制を作ること、それぞれの地域を活かせるのではないかと。</p>	<p>福島県と新潟県の地方空港の連携による観光振興は、これまで、新潟県と連携して、海外の旅行エージェントやメディアの招請を行ってきたところです。</p> <p>昨年度は、水際対策の大幅な緩和を受けて、タイ現地のインフルエンサー等を招請し、美しい雪景色や地元のおいしい食等をSNSで発信するなど、海外からの誘客促進に取り組んでおります。</p> <p>今年度も、各空港における国際線復便・増便の状況を踏まえながら、引き続き、外国人観光客の誘客に取り組んでまいります。</p>
54	会津	意見発表者	その他	<p>青年会議所のメンバーが非常に少なくなってきた。自分達の生活が一杯一杯なのではないか。「面白いですね。ぜひ協力したいです。」と言う一方、実際に声をかけると「やはり仕事が・・・。」や「金銭面的に厳しいです。」と言われることが非常に多い。若者たちがここで暮らしやすいと思う施策があれば良い。</p>	<p>仕事と家庭の両立に取り組む企業を支援するため、次世代育成支援企業認証を取得する企業の増加に努め、また、男性の育児休業や長時間労働是正等を対象とする奨励金を拡充して周知を図っているところであり、引き続き、ワークライフ・バランスの推進に取り組んでまいります。</p>
55	会津	意見発表者	第4章 政策分野別の主要施策 ひと	<p>国の異次元の少子化対策を評価するかというアンケートに4万人に近い人が回答しているが、評価しないが93.5%である。(一時金等ではなく)地道な活動が必要であり、子どもを産んで良かったと思う親が目に見えるようになることが、少子化対策につながる。県は国と同じ政策を行ってダメだと思ふ。</p>	<p>子育てや子育てに夢と希望を持てる社会づくりを目指す「ふくしま新生子ども夢プラン」のもと、希望する方が希望どおりに結婚・妊娠・出産をして子育てできる環境を整えてまいります。</p>
56	会津	意見発表者	第4章 政策分野別の主要施策 しごと	<p>小規模事業者支援策はあるが、個人の店舗等は申請書を書くということ自体のハードルが高い。(商工会議所の経営指導員が)小規模事業者には、色々聞き取りをしても、自分のやりたいこと、決まっていることを申請書に表現できずに、必要な支援に手が届かない。</p> <p>農業に比べて、商業は支援がかなり不足している印象がある。人口減少を防ぐためには、小規模事業者を守るという視点で、小規模事業者自身が支援されていることを感じられるような施策があれば良い。</p>	<p>県では、商工会及び商工会議所等による伴走型支援(計画づくりから事業実施後のフォローアップまで一体的な支援)を受けながら、持続的な発展に向けた創意工夫ある取組に対して必要な経費の一部を補助する事業を実施しているところであり、引き続き小規模事業者の支援に取り組んでまいります。</p>

No	地域	発言者	分野	意見等	県の考え方
57	会津	意見発表者	第4章 政策分野別の主要施策 暮らし	<p>県民が安心して医療を受けられるような体制、不安がない体制があれば、住みやすさにもつながる。特に、子育てをしている方や介護をしている方にとっては、そこが重要なポイントになる。</p> <p>喜多方市では、何かあったときは会津若松市内の病院まで行かなければ、子どもを守れない、という不安を抱えて子育てしているお母さん方が少なくない。高齢者も救急搬送となると会津若松市内の病院まで行かなければならない。命の危機を争う状況だと、その移動距離すら不安で不安で仕方が無いという状況で介護・看護をしている。</p> <p>また、交通費がかかる、大きい病院に行くとお金がかかる、具合が悪いとタクシーにも乗れない、誰が連れてってくれるのだろうかという不安もある。</p> <p>喜多方市では、一回あたりの入院や手術にかかる金額が他の地域より大きい。具合が悪くても受診を控えてしまっているからなのではないか。我慢我慢して、重症化してから病院に行くから、医療費が増大してしまうのではないかと感じている。福島県の健康の指標が日本でも低いと言われているのも、そういうことの積み重ねではないかと懸念をしている。</p>	<p>喜多方地域の救急医療については、病院群輪番制により対応しています。県としては、救急医療機関への施設整備や救命救急センター運営に対する支援、関係機関と連携したドクターヘリやドクターカーの機動的な運用など、面積が広大な会津地域の特性に応じた円滑な搬送、受入体制の確保に取り組んでおります。</p> <p>なお、病気や怪我の際に気軽に相談できる窓口として「救急電話相談事業（＃7119、15歳以上対象、24時間365日受付）」や「こども救急電話相談事業（＃8000、15歳未満対象、19時～翌日8時365日受付）」を設置しており、周知に努めているところです。</p> <p>また、生活習慣病の発症予防の徹底や重症化予防、病気の早期発見・早期治療などの健康づくりに関する取組のほか、各保険者と連携した医療費適正化に向けた取組を進めております。</p>
58	会津	意見発表者	第4章 政策分野別の主要施策 暮らし	<p>不安なく働ける環境が、地域に住み続けるためには重要な要素である。仕事で懇親会などのお付き合いが多いが、介護のために中座をしなければならない事が多い。当然ヘルパーなどの手段はあるが、そこに空きがなかったり、人がいなかったりするため、そのサービスが使えない。そうすると、仕事を犠牲にしようという方は変だが、中断して帰らなければいけない。</p>	<p>介護人材の確保については、必要な介護サービスが提供されるよう、さらに魅力ある職場づくり、魅力ある職場の発信に重点的に取り組んでいるところです。</p> <p>また、介護従事者によるサービス提供体制の充実やサービスの質の向上などに向け各種施策を実施しているところです。</p> <p>引き続き、いただいた御意見を踏まえながら、介護人材の確保にしっかりと取り組んでまいります。</p>
59	会津	意見発表者	第3章 みんなで創り上げるふくしまの将来の姿	<p>今回の総合計画は、とてもすばらしい内容だと思った。企業でもそうだが、いろいろな意見があり、結局誰がやるのか責任の押しつけ合いが始まり、物事が動かない。その責任についても計画に入れられたら、すばらしい県ができるのではないかと思います。</p>	<p>計画は策定した後、いかに実現していくかが重要であると認識しております。目指す将来の姿の実現に向け、施策の推進に当たっては、第4章において「連携・共創」や「ご縁」「信頼」等を大事にしたい視点として掲げております。これらの視点を常に念頭に置き、県内の各主体の取組が相乗効果を生み出せるよう、協働する仕組みづくりに取り組んでまいります。</p>
60	会津	意見発表者	総合計画の周知・広報	<p>総合計画があるというのを知ったのはここ数年である。日常生活を送る中では、知る機会が無い。選挙の投票率が低いと言うが、政治に興味を持つまでいかになくて、町や地域に対して関心を持ってもらうことが、地域創生の一歩だと思う。こういった計画があることや、こうやってちゃんと町や市など（行政）が動いているということを知ってもらうことが大事だと思う。</p>	<p>総合計画の認知度向上のため、令和4年度から学校や企業、団体、市町村職員等を対象とした出前講座を実施しており、令和4年度は計49回、2,853名の方に、令和5年度は6月末時点で計12回、862名の方々に御参加いただいたところです。</p> <p>引き続き、福島県の将来について関心を持っていただき、共に課題解決に取り組む機運醸成のため、幅広い世代を対象に、出前講座等の周知活動を実施してまいります。</p>
61	会津	意見発表者	第4章 政策分野別の主要施策 ひと	<p>都会と比べて、子育ての環境が良いと言うには、都会と同じでは全く魅力がないと思う。地域の魅力に特化した政策を明確にし、万人が同意する政策は難しいと思うので、マッチングした人を呼べるような、わかりやすい政策や子育て環境を整備すれば良いと思う。</p>	<p>地域の特性を生かした自主的な子育て支援や親支援の活動を促進するため、市町村が創意工夫により実施する子育て支援の取り組みを推進しております。</p>

No	地域	発言者	分野	意見等	県の考え方
62	会津	意見発表者	第4章 政策分野別の主要施策 ひと	<p>65歳以上の高齢者は、とても元気で、まだまだ現役レベルで知識も知恵もたくさん持っている。そういった方々が活躍できる場をもっとつくといいと思う。</p> <p>子育てと結び付けて、見守りを高齢者の方々にお願いをしたり、いろいろな昔の遊びや畑仕事などを教えたりすることで、高齢者も、快く老後を過ごすことができると思う。</p>	<p>高齢者の社会活動促進として、老人クラブが行う事業の支援等を行っております。老人クラブでは、高齢者の通いの場の開催、スポーツや文化活動、子どもや高齢者への見守り・生活支援、世代間交流、交通安全活動、悪徳商法の被害防止に関する活動等を行っており、高齢者の閉じこもり予防や健康の維持、次世代の育成支援、地域の再構築や地域の支え合いの輪を広げるなどの効果が期待されております。</p> <p>また、市町村が実施している専門職や生活支援コーディネーターなど、関係者と連携した地域の課題解決に向けた取組を支援しています。</p> <p>引き続き、関係機関と連携しながら、老人クラブへの加入促進及び高齢者の生きがいづくりや健康づくりの推進、高齢者の自立支援・重度化防止に取り組んでまいります。</p>
63	会津	意見発表者	第2章 福島県を取り巻く現状と課題	<p>東日本大震災の時は、ここにはいなかった。福島県の情報を知る方法は、テレビや新聞しかなかった。福島県から離れている地域では、福島県は危ない、近付けない、帰れないと言われていた。とんでもないことが福島で起きていると、当時とても心配していた。震災から3年後に福島に戻ってみると、報道されているほどではないと感じた。</p> <p>正しく偏らない、権力などに左右されない正しい情報を全国に発信して欲しい。</p>	<p>「正しく偏らない、権力などに左右されない正しい情報を全国に発信して欲しい」につきましては、新聞社やテレビ局をはじめとする、メディアの情報発信の元となる正確な県政情報の提供について、知事定例記者会見の実施や県政記者へのプレスリリースを通して行っているところであり、引き続き取組を継続してまいります。</p>
64	会津	意見発表者	第4章 政策分野別の主要施策 ひと	<p>地方創生とか人口減少、経済的地域課題など、それらに共通した解決策として、関係人口の流入の促進が非常に大事だと思っている。関係人口は来訪の目的が人であることが多いと感じる。関係人口を増やすために、この地域はどういう地域で、どれだけ魅力的な働き方、あるいは暮らし方、魅力的な生き方をしている人材にあふれているのか、というのを、地域を挙げてアピールすることが肝要なのではないかと思う。地域内の魅力的な人の生き方にフォーカスして、その人に会いたい、話したいと思わせるようなローカルスターにあふれた地域であることを、地域の外に発信すべきだと思う。</p> <p>福島県内、会津地域に就労する各世代、また高齢の方々も含め、各世代の人にフォーカスしたそれぞれのハッピーな生き方を国内外にアピールする枠組み、例えば福島ヒューマンライブラリーのようなものを整備し、国や他県とは異なる施策を他県に先んじて取り組むことが大事なのではないかと思っている。</p>	<p>昨年度に開設した関係人口ポータルサイトにおいて、地域で活躍するキーパーソンを紹介し、関心を持った方がモノの購入やイベントへの参加など様々な形で関わりを持つきっかけづくりを行っております。</p> <p>また、キーパーソンをゲストに迎えたYoutubeのライブ配信を実施し、地域への関心を高め、新たな関係人口の創出につなげており、引き続き、人を切り口とした情報発信を通じて、本県の魅力を発信してまいります。</p>
65	会津	意見発表者	第4章 政策分野別の主要施策 ひと	<p>「子どもが大学に行って地元に戻ってこない」を解決するためには、地域の大人が「地元が好きだ」と言えるかどうかだ。地域外から人を呼び込むにも、地元を離れた家族を戻すにも、自身が地元を愛せる人であることが原点だと思う。しかし、「好き」というのは押しつけや強制するものではないため、地元が「いいものなんだよ」と促すような取組が大事なのではないかと思っている。</p> <p>小学校、中学校の家庭科の授業では、小学校5年生でエプロンを作ったり、中学生ではナップザックやティッシュケースを作ったりする。調理実習もある。なぜ、裁縫の授業に会津木綿を使ったり、調理実習に笹巻きを作ったりなど、地域ならではのものに取り組みませんか。地元の先輩である母親達との交流もできる。まずは「地元を好きになる」ための、強制ではなく促す取組が必要ではないかと思っている。</p>	<p>第7次福島県総合教育計画において、学びの方向性として「福島ならではの教育の充実を目指しております。福島で学び、福島に誇りを持つことができる「福島を生きる」教育の実現に向け、特に福島の良い（豊かな文化や歴史、自然環境、第1次産品等）をいかした学びを推進してまいります。今後においても、地域との連携・協働を図りながら、「福島ならではの」教育に目を向け、地域をフィールドとした探究的な学びを推進してまいります。</p>

No	地域	発言者	分野	意見等	県の考え方
66	会津	意見発表者	第4章 政策分野別の主要施策 暮らし	民間や地域で活動している団体と手を組んだ事業が地域に広がっていくと、地域は強くなるのではないかと。サポート事業だけで終わってしまう事業も多いかもしれないが、民間や地域で活動する団体を地域に作ってあげれば、地域解決のアイデアや、取組が生まれ、地域が住みやすくなることにつながるのではないかと。それぞれの団体の活動を情報として提供する仕組みがあれば、「困った時にここに相談すればいい。」とか、「協力してもらおう。」となる。このような地域間のネットワークがもう少しあれば地域はよくなると思う。	サポート事業を通じて、地域で活動する団体等のスタートアップや育成を支援しております。また、サポート事業の成果発表会を実施することで、地域づくり団体等の様々な取組について情報発信するとともに、団体の連携促進を図っております。
67	会津	意見発表者	第4章 政策分野別の主要施策 ひと	困っている親と子双方を支えてくれる施設である母子生活支援施設と児童相談所に力を入れてほしい。子育て支援サービスに従事していると、順調な方だけではないことがよくわかる。しかし、母子生活支援施設や児童相談所の予算や人員が不足しているの、そういうところをぜひ充実してもらいたいと思う。 ただ、充実しろと言われても困ると思うので、私達ができることは、協力したいと思っている。ただ、最近、我々のサービス(ファミリーサポート、ホームスタート)ではもう、どうしてもカバー仕切れない子供達がいる。児童相談所では、そういう子供達を施設ではなく、なるべく家庭で育ててもらうために、我々に協力を求める。我々もできる限りのことはするが、我々は児童相談所と一緒に対応し、児童相談所の判断のもと、協力することはできるが、我々だけに任せられてもちょっと無理だと思いつながりながら日々活動している。	厚生労働省は、平成30年度に、令和4年度までに全国で毎年505人程度ずつ児童福祉司を増加させる目標を設定しました。その後、児童虐待が増加している状況を鑑み、目標を1年前倒し、令和3年度までに達成させることとしました。これに伴い本県における児童福祉司についても、配置人員を増やし対応しております。 研修等により若手職員の資質向上を図り、児童相談所の職員体制の更なる拡充を図ってまいりますので、可能な限り御協力お願いいたします。
68	会津	意見発表者	第4章 政策分野別の主要施策 しごと	観光は、型にはまったおもてなしをすることが大切ではなくて、自分がここを好きだからそれを訪れる人に紹介したいというのが本当のおもてなしだと思っており、それを語れる県民がいっぱいいれば福島県はもっと魅力的になると思っている。	県では県内の魅力を発信するだけでなく、地域に眠る観光資源の掘り起こしや、既存の観光コンテンツの磨き上げなどを行い、観光の魅力を県内外の方へ知ってもらえるよう、引き続き取り組んでまいります。
69	会津	意見発表者	第4章 政策分野別の主要施策 しごと	私も行政をやっていると思うが、行政が観光をやることには制約が大きく、限界がある。公平を担保すると、魅力が平均的になってしまう。これを改善するには、「民が引っ張る」というのが1番だと思っている。会津に観光の株式会社みたいなものがある、そこが観光を仕切るくらいのが会津のポテンシャルには合っているんじゃないかと実は思っている。 全会津の協議会的なものがあったとしても、観光資源はこのエリアで三つのようなことになりかねない。本当に今トレンドで来ているものをピックアップしたり、ニッチで面白いことがあるから、コーディネートして売り出そうとか、そういった自由度がないと、観光は発展しないと思っている。 行政の職員は、計画を作って管理することにボリュームを取られ、実際に観光の現場に出て何が出来るかっていうと、時間や制約あって大変だと思う。観光を思い切って民間に任せるような仕組みを作り、人が緩やかにつながり、福島県を好きな人がいっぱい増えていくようになっていったらいいと思う。	県では地域の取組をさらに強化し、自立化、自走化させるため、観光コンテンツの造成や磨き上げ、商品化、流通までの一連について、地域とともに取り組んでいるところです。 今年度も、地域がより主体的かつ継続可能な取組が行えるよう従来の観光コンテンツ造成支援のほか、地域の受入体制強化を図るため観光人材育成や経営改善などの支援を実施してまいります。
70	会津	意見発表者	その他	福島という地域がいかにも魅力的かということ、人間の成長は何かということ、お金という物差し、つまり経済成長というものを目安に計っていないか。“経済成長が出来たか出来なかったか、何%だったか”ということが、人の成長であるかのような錯覚をマスメディアが報道するが、人の成長とは経済だけが物差しではない。様々な価値観があって、福島県民の成長の在り方や会津の人の成長の在り方は何かということ、それぞれが自分の物差しで自覚することが出来たら喜びが大きいと思う。	—

No	地域	発言者	分野	意見等	県の考え方
71	会津	意見発表者	第4章 政策分野別の主要施策 暮らし	<p>会津漆器業界は、後継者が不足している。会津漆器の根幹を支える基盤が、ここまで落ち込んでしまったという現状を何とかしたい。組合の中で声を上げても、職人の世界ではまだ若手で、70代80代の先達に何だと言われると、なかなか動けない。そういうことは漆器の業界だけではなく他の産業のいろいろな職種の中にあると思う。</p> <p>県の新しい枠組みで、訴えて相談したら予算がついてチャレンジできる。そういう制度を創設していただけたら、何か地域の活性化に役立つのではないかと課題解決に向けて役に立つと思う。</p>	御意見を参考にさせていただきながら、引き続き地域の活性化に向けた施策等を検討してまいります。
72	会津	意見発表者	第4章 政策分野別の主要施策 暮らし	<p>中山間地域は高齢化が進んでおり、農地や林用路網の整備作業を地域住民だけで担うのはとても大変である。さらに、業者に頼む予算もない。現状は、息切れする思いでどうにか毎週活動をして、維持管理している。どうにかできないかと思っている。</p>	<p>農地の維持管理については、中山間地域等直接支払、多面的機能支払制度を活用し、地域ぐるみの農地保全の取組を支援しているところです。また、高齢化等に対応するため、保全活動に当たって、集落間の連携や地域内外の多様な人材(農村関係人口)の活用に向けた取組を推進しております。引き続き、各地域の状況に応じた支援を行ってまいります。</p> <p>路網整備・管理においては市町村において、各種支援事業を用意していることがありますので御相談ください。県としましても経費等の補助などにより市町村が実施する補助事業等の支援を継続してまいります。</p>
73	会津	意見発表者	第4章 政策分野別の主要施策 暮らし	<p>駆除したクマやイノシシは、その後どう処分されているか考えたことがあるか。駆除隊員がその場に穴を掘って埋めないといけない。個人的には、もう心底「やめてくれ」と思っている。というのも、自宅の敷地内にも数多くイノシシやクマが埋まっている穴があるからだ。本当に早急に、ゴミとはまた別に、駆除した動物を焼却処分する専門の施設を会津地域広域でつくってほしいというのが、切実な願いだ。</p> <p>いくら猟銃の資格を取るのに補助金を出しても、最終処分方法が徹底されていなかったら、新たに駆除隊になる人がおらず、結局隊員は高齢者中心のままだと思う。若い人が入ったとしても、罨までしか携わらないとか、初期の段階でとどまってしまう。</p> <p>農家の立場として早急に取り組んでほしいのは、駆除された動物たちの焼却処分処理場だ。切実な願いだ。</p>	<p>御意見いただきましたように、捕獲後の野生鳥獣の処分は埋設いただくか、一般廃棄物として、市町村や広域組合所有の処理施設で焼却等をいただくこととなります。</p> <p>県では、地域の実情に合った処分の事例を市町村に紹介するとともに、適切な処理が進むよう相談に対応しております。</p> <p>また、協議会等が行う焼却施設の整備にあたっては、鳥獣被害防止総合対策交付金による財政支援がありますので、市町村等に対して情報提供してまいります。</p>
74	南会津	意見発表者	SDGs	<p>今、SDGsが注目されているが、SDGs17項目のうちの14項目は、私が子供の頃、40年ぐらい前は、只見の人たちは全員そういう生活をしていた気がする。</p>	「持続可能で豊かな福島」の実現に向け、地域の良さを改めて見つめ直し、その魅力を深化させながら各種施策に活かしてまいります。
75	南会津	意見発表者	第4章 政策分野別の主要施策 しごと	<p>親が亡くなると農地だけ集まってくるが、従事していた人が減ったことで、維持できずに集めた農地を手放すことになる。これでは、本当に地域終わってしまうということで、会社を設立して、自分の農地を子ども以外にも譲れるような状況を作ってきた。そして今では、社員やその家族も増えて、2人で迎えていたお正月が、今16人ぐらいで迎えるようになった。計画的に進んでいけば、必ず地域はよみがえると感じる。</p>	<p>地域の話合いを通じて、10年後に目指す農地利用の姿を示した目標地図の作成など、市町村による地域計画(地域農業の将来像)の策定を支援しております。</p> <p>また、法人化や集落営農の推進など、本県の農業を持続的に発展させていくため、農業担い手への積極的な支援を行っております。</p>

No	地域	発言者	分野	意見等	県の考え方
76	南会津	意見発表者	第4章 政策分野別の主要施策 ひと	私は3人兄弟で、2人起業しているし、私の同級生は18人しかいないが、起業している人が6人いる。都市部の子に偏差値で2つか3つ負けても、社会に出たときに、どっちが活躍出来るのかと思う。この地域でやらなきゃいけない教育は、本当の意味で人間性を育てる教育だと思う。	本県では、大震災の経験を踏まえ、ふくしまの未来を創り、支える子どもたちの心の基盤づくりに繋げるために「ふくしま型レジリエンス」の育成を目指しております。その取組の一つとして、「命の大切さ」「家族や地域の絆」「思いやり」「郷土を愛する心」等を育み、多様性を尊重しながら温かな人間関係を築く「家庭や地域社会等との連携を図った道徳教育」の充実を図っております。教育において人間性を豊かにすることは重要な課題であり、この取組を積み重ね、「福島に生きる」教育の実現を目指してまいります。
77	南会津	意見発表者	第4章 政策分野別の主要施策 しごと	2024年度に働き方改革が推進されるが、今業界を含めて大変これを危惧している。公共事業を行っているが、完全な週休2日や残業時間を制限されると、現場の竣工時期が自然と伸びる。そうすると、休暇が増えるので工期を伸ばしていただいても、会社の経営からするとお金が入ってくる時期が延びる。国でも県でも、今、それに向かって賃金アップとか設計単価の見直しなどいろいろをやっていたくのは十分承知しているが、それでも人員を確保しないことには現場は進まない。除雪や災害時の対応を見ても、やはり人である。	建設業に従事する技能者の処遇改善と中長期的な確保や育成を目的として、技能と経験に応じて給与が改善されるように、建設キャリアアップシステム(CCUS)に取り組んでいます。引き続き国の動向に注視して、適切に対応していきます。 建設業の担い手の確保につきましては、県が取り組むべき建設業振興施策の基本計画である「ふくしま建設業振興プラン」に基づき、将来の担い手として期待される小学生や子供の就業先の選択に影響が大きい保護者を対象として、建設業の魅力等を伝える現場見学会を開催しています。また、若者が情報収集ツールとして利用しているSNSを活用した情報発信や、さらには建設業に馴染みがない普通科の高校生への説明会を開催するなど、積極的な広報に取り組んでいます。
78	南会津	意見発表者	第4章 政策分野別の主要施策 しごと	東南アジアから技能研修生に豪雪地帯に来てもらうことになった。冬場どういう仕事をさせて、そのまましてもらうような努力をして、また、今いる従業員、または地域の人に貢献できるかも含めて成功する確率は低いかもしれないが、やってみようと思っている。	-
79	南会津	意見発表者	第4章 政策分野別の主要施策 ひと	小学生ぐらいから興味を持たせるように、地元のあらゆる仕事、産業に興味を持ってもらうような授業も必要だと思う。	本県では「福島の創造的復興教育の核として、ふくしの未来を創る人材を育成する」ためにキャリア教育を推進しております。児童生徒は、社会科や総合的な学習の時間といった各教科等の授業に加え、学校や地域の特色を生かした様々な体験学習を通じて、児童生徒自身が生活している地域についても学んでおります。これからも学校、家庭及び地域での学びを将来につなげることができるよう、キャリア教育の一層の推進に取り組んでまいります。
80	南会津	意見発表者	第4章 政策分野別の主要施策 暮らし	地域おこし協力隊の募集の際に歌舞伎をやってくれるかどうか聞いてみることも必要かと思う。 また、農業であれ、観光であれ、採用する際に聞いてもらうといいのではないかと。実際には、聞いて採用されているのかも知れないが、見えてこない。	-
81	南会津	意見発表者	第4章 政策分野別の主要施策 しごと	人材の安定的な確保が必要で、地道な活動を続けていくしかないので、できることをやっていきたいと思っている。現在、進めているのは、地元高校生の計画的採用。過去3年で、毎年、新規学卒者、1~2人確保が出来ている状態である。	人材確保につきましては、高校生に地元企業で働く魅力とやりがいを伝えるため、若手社員の講話や保護者向けのセミナー、高校生と保護者を対象とした企業説明会など様々な取組を進めております。さらに、今年度からは、小中学生を対象とした工場見学や職業体験イベントを実施することとしており、将来を担う子どもたちの地域への愛着や興味を喚起し、職業観の醸成を図るなど、県内企業の人材確保の支援に取り組んでまいります。

No	地域	発言者	分野	意見等	県の考え方
82	南会津	意見発表者	第4章 政策分野別の主要施策 ひと	南会津高等学校に総合学科があるので、各個人の探究学習、1人でも介護に興味を持っていただき介護の探究学習がしたいというようなことがあれば、学校へ出向くのはもちろん、いろいろ協力させていただきたいと思っている。ぜひよろしくお願ひしたい。	課題研究で、自分の進路を見据えながら探究学習に励んでおりますので、介護分野について学びたいと考えている生徒のために、御協力いただけるのは大変ありがたいと考えております。南会津高校へ情報提供して、取組の充実を図ってまいります。
83	南会津	意見発表者	第4章 政策分野別の主要施策 しごと	今の若い方は職業選択において、給料よりも休日や休暇がとれるかというところに重きを置いている傾向があると聞いたことがある。 介護の現場は、入所施設であれば24時間365日サービス提供する必要があるので、交代勤務の中で、連続休暇がとれないようなイメージが持たれてしまう。そうした中で、介護現場こそ週休3日制取り入れるべきだという考えもある。労働環境整備について、今後、思い切ったかじ取りも必要になってくると考えている。	—
84	南会津	意見発表者	第4章 政策分野別の主要施策 しごと	植物に向き合って黙々と作業するのが好きな人がいたり、みんなでしゃべりながら仕事することが好きな人がいたり、社交的な人がいたりといろんな人がいるが、そういう人たちに、それぞれに合った仕事を社内で担当してもらうようにしている。100%そうはいかないが、なるべくそういう取組をしている。	—
85	南会津	意見発表者	第4章 政策分野別の主要施策 しごと	子育て中の若いお母さんなどはパートタイムになってしまうが、働いていただけるように、子供が急に熱を出したとか、迎えに行かなければならないからいからちょっと抜けますとかそういう出入りを、本当に自由にやってもらうようにしている。会社としてはなかなか段取りを組んだりが難しいところだが、役員が中心になって日々話し合っ、そのときに忙しいところの業務に人を移動させるなど、いろんな仕事をみんなで回していくというような形でやっている。	女性活躍や働き方改革の推進にあたっては、生産性の向上に寄与する視点から、企業の経営戦略としての意識が重要であると考えます。県内企業に対する長期間の集中コンサルティングや、働き方改革やイクボスに関する出前講座等により、経営者や従業員の意識改革を支援してまいります。
86	南会津	意見発表者	第4章 政策分野別の主要施策 ひと	仕事をしつつ子育てをする、また消防団に入ったりスポ少の指導をしたりといろいろやっているが、子供にかかる時間は本当に大切だと実感している。私も両親の背中を見て育ってきて、いろんな理由があったがUターンして生活しているという現実があるので、それは非常に大事だと思う。	—
87	南会津	意見発表者	第4章 政策分野別の主要施策 ひと	人口減少は、経営の中では、実際に増やすことはもう無理だと思っている。それは、町や県、国でも同じで、減っていくのを増やすのは本当に難しいことだし、答えが出ないと思う。 減ったなりに仕組みを変えていくというのが絶対に必要なことで、忙しくて、もう1人必要なときに、今の人数でできるように工夫をする。それは設備投資なのか、仕組みを変えるのか、というのはその都度違うが、やはり人口減少に合わせた工夫が必要。	県人口ビジョンに掲げる目標である「2040年に福島県総人口150万人程度の維持」の実現に向けては、自然増と社会増の両面から取り組むことが重要であると考えております。 結婚・出産・子育ての希望をかなえる環境づくりやデジタル変革の推進、若い世代の県内就業の促進、転職なき移住の推進、移住希望者への相談・受入体制の充実など、御意見も踏まえながら、総合政策として様々な切り口から取組を進めてまいります。
88	南会津	意見発表者	第4章 政策分野別の主要施策 しごと	人を増やすために企業誘致をして、大きな工場を作るとよく言われるが、今現在、誘致した企業にも就職する人がいない状況。企業誘致をする時に、工場とか大きいところではなく、例えば家族でITをやっている企業なので、家族単位で引っ越してくれる人たちが暮らしていけるような基盤をつくっていかたいと思う。一時移住的な、仕事を持って南会津に来て暮らしていけるところを作っていくことをやってみてはと思う。	コロナ禍を機にテレワークが普及し、仕事を変えずに地方に移住する「転職なき移住」が浸透しつつあることから、こうした流れを本県に呼び込むため、テレワーク導入企業を対象に、本県でのテレワークによる暮らしの体験機会の提供に取り組んでおります。 また、新たに、本県で地域貢献に取り組む県外企業が県内にオフィスを整備して県外から県内に社員が転入する場合の施設整備費を補助し、企業移住を促進してまいります。

No	地域	発言者	分野	意見等	県の考え方
89	南会津	意見発表者	第4章 政策分野別の主要施策 ひと	地域の子供たちを外に出さないということではできない、仕事を選ぶという意味では子供たちの未来を束縛することは出来ない、仕事を持ちながら暮らしていけるような基盤を作り、都会でやっている仕事も南会津で出来ることを見せていくこと、人口減少に合わせて、この企業の在り方や地域の在り方を検討していくことも大事だと思う。	御指摘のとおり、若い世代の県内定着・環流の促進に向けては、県外への転出を制限するのではなく、若者が福島に住みたい、福島で働きたいと思える魅力ある県づくりを進めることが重要であると考えております。 県内や東京に拠点を設けた就職相談支援や、SNSを活用した学生への企業情報の発信など、地域産業や地元企業への理解を深め、若者の県内への就業促進に取り組むとともに、社会情勢の変化を踏まえたテレワークの受入環境の充実やサテライトオフィスの設置を支援するなど、若者の県内定着・還流に取り組んでまいります。
90	相双	意見発表者	第4章 政策分野別の主要施策 しごと	複雑な家庭環境で育っている児童生徒というところが教育分野ではキーワードになっている。双葉郡の児童生徒の中にも、移住して転校してくる児童生徒がいる。そのような児童生徒の様子を見ていると、保護者の就職、職の安定が子ども達の教育環境に大きな提供を与えているということを学校現場で感じているところである。 子育て世代の移住・定住促進を図るためには、魅力ある企業誘致等が必要になってくる。保護者の安定した雇用が、子ども達を安心して地域で育て、学んでいくことにつながり、それが子ども達が地域に愛着を持って、地域に根差すつながりになっていくのではないかなと思う。	保護者の就職支援につきましては、県内7か所に設置した就職相談窓口において、きめ細かな就職相談やマッチング支援を実施しているところであり、今後とも求職者のニーズに寄り添った支援を行ってまいります。
91	相双	意見発表者	第4章 政策分野別の主要施策 暮らし	相双地域には、高齢者が利用できる公的なもの、インフォーマルなサービスも含めて社会資源が少ない。ある程度元気な高齢者が利用できるサービスがないため、在宅でサービスを利用して生活が成り立つ方が帰還に二の足を踏んでしまうという状況がある。高齢者が地域で元気に過ごせるような社会資源の創出をお願いしたい。	介護提供体制の整備のため、避難指示解除区域の介護施設等に就労を予定している方への就職準備金等の貸付や県内外の介護施設からの介護職員の応援による人材確保を行うとともに、訪問サービスを行う介護事業所の運営費の補助等を行っております。 また、高齢者の社会活動促進として、老人クラブが行う高齢者の通いの場の開催、スポーツ、文化活動等の事業の支援などを行っているほか、市町村が実施している専門職や生活支援コーディネーターなど、関係者と連携した地域の課題解決に向けた取組を支援しているところです。
92	相双	意見発表者	第4章 政策分野別の主要施策 ひと	子育て世代に移住していただきたいというのが双葉郡、相双地方の想いだと思うが、相双地域には子育て環境が脆弱なところが未だある。これは、行政だけで対応できるのではなく、一民間企業それぞれがしっかりと努力して、整えていくことが必要。しかしながら、自助努力を進めるのは限界もあることから、行政としてサポートしていただくと取組が加速していくのではないかな。	地域子育て支援拠点事業、ファミリー・サポート・センター事業、一時預かり事業などの地域子ども・子育て支援事業を行う市町村へ支援しております。
93	相双	意見発表者	第4章 政策分野別の主要施策 ひと	子どもを産み育てることにリスクがある。子ども一人育てるためには、2,000万円から3,000万円の教育費がかかるが、子どもがちゃんと育つかは分からない。もしかすると、引きこもりや子どもが犯罪を犯してしまうことも考えられ、親としてはリスクがどうしても増える。 また、子育てで自分の時間がなくなってしまうなどリスクの方が多い現状である。子どもを産み育てることに、リスクが先行してしまい、一歩踏み出せない方々が多くいると思う。産み育てることにしっかりとメリットがあるような世の中になると良い。	18歳以下の子どもを持つ家庭の子ども入院及び通院に係る医療費を無料化する等、医療費、保育料、教育費等について、子育て世帯の経済的負担の軽減を図っており、引き続き、安心して子育てができ、子どもが健全に育つことができるよう、社会全体で子育てを支援していく体制づくりを進めてまいります。
94	相双	意見発表者	第4章 政策分野別の主要施策 ひと	今、核家族化が進んでいる。そして共働きが当たり前という社会であることから、行政的にも、核家族に対応した政策を進めていただくと、働きやすい環境、そして産み育てやすい環境になっていくのではないかな。	核家族化の進行や共働き家庭の増加に伴い、保育ニーズは高い状況にあることから、県としても、これらのニーズに対応するため、施設整備や人材確保による受け皿の拡充、多様な子育て支援サービスの提供など、地域の実情に応じた様々な施策を進める市町村を支援しています。

No	地域	発言者	分野	意見等	県の考え方
95	相双	意見発表者	第4章 政策分野別の主要施策 じごと	時代の流れにはやはり逆らえないと思っており、流れというかその変化にどのように自分たちがうまく取り組んでいけるかが非常に重要であると思っている。日本で250円、300円のトルコギキョウが、海外に輸出される時は500円、600円という高値で取引されるということがあるので、日本だけでなく、海外に目を向けるのも一つの手であると思う。	海外における県産品の販路拡大については、輸出先国の経済力や文化、消費者の趣向、輸送距離などを総合的に考慮し、農産物や加工品など品目ごとに重点的に取り組む国・地域を定め、戦略的に推進してまいります。
96	相双	意見発表者	第4章 政策分野別の主要施策 ひと	人口減少は、働く人が減る、消費者が減るということに直接つながることから、まずは、ふくしま創生総合戦略に掲げる目標、それに対応する事業を進めていただくとともに、我々もどう対応していくのか自分事として考えていかなければならないと思う。	県の抱える課題を自分事として捉え、福島に心を寄せて下さる県内外の各主体との連携・協働を深める機会を創出するため、「ふくしまSDGs推進プラットフォーム」を令和4年度から設置いたしました。 セミナーや分科会、各会員の取組を共有するイベントの開催を通じ、持続可能で豊かな福島の実現に向けた取組を推進していきたいと考えておりますので、是非、ポータルサイトを御覧いただければ幸いです。 【URL】 http://www.pref.fukushima.lg.jp/site/sdgs-pf/
97	相双	意見発表者	第4章 政策分野別の主要施策 ひと	人口減少は全国の問題。もちろん人口を減少させないための対策は必要だが、福島県の人口が100万人になってしまったときに、どのように経済を回していくのかという対策・対応の検討も必要である。	御指摘のとおり、人口減少対策の検討に当たっては、中長期的な視点に立ち、常に先を見据えながら取り組んでいくことが重要であると考えております。取組の進行管理を実施する中で、福島県の実状をしっかりと把握し、様々なケースの検討を重ねながら施策を推進してまいります。
98	相双	意見発表者	第4章 政策分野別の主要施策 暮らし	人口減少対策として、まず、地域から離れないで居てもらうことが非常に大事になると思う。相馬市に移住して、やはり魚の美味しさが印象的であったが、相馬市に住んでいても魚のことを全然知らない人ばかりである。地域の魅力に触れ合う機会の提供を進めていくことで、若者が地域から離れないことにつながっていくのではないかと。	御意見ありがとうございます。人口減少対策の重要な視点になると思います。県としても、各種出前講座などを通して、子ども達に地域の魅力や本県の素晴らしさを伝えてまいります。
99	相双	意見発表者	第4章 政策分野別の主要施策 暮らし	災害対策に強い県であってほしい。2011年からのことを考えると、相馬市は原発事故の避難地域ではないが、水害1回、地震2回に見舞われ、松川浦の旅館は、かなりの確率で未だに本格的な再開ができていない状況である。自然災害は誰にも止められず、誰も悪くないのだから、やはり県に助けをもらいたいと皆が思っていると思う。災害に対しては県が頑張るところであれば、移住する側としても非常に心強いと思われる。	本県は、震災以降も、令和元年東日本台風、令和3年及び令和4年の福島県沖地震など度重なる大規模な災害に見舞われてきました。令和元年東日本台風においては、被災者生活再建支援金に加え、半壊・床上浸水の世帯に対し、県の独自支援として給付金を支給いたしました。令和3年及び4年地震においても災害救助法の応急修理に加え、一部損壊の世帯に対しても修理を実施した世帯に対し、修理費用の補助事業を実施しております。 また、激甚化・頻発化する災害に備えるため、河川改修や交通ネットワークの維持などに必要な予算を確保し、継続的・安定的に災害に強い県土づくりに取り組んでまいります。 災害から大切な命を守るためには、公助はもとより、自らの命は自らが守るという自助の意識と地域が助け合う共助の意識を高めることも大変重要です。県としては、震災の教訓をしっかりと後世に伝えるとともに、市町村を始め、県民、事業者の皆さんと連携しながら、社会全体で災害から命を守る取組を推進し、地域防災力の向上に全力で取り組んでまいります。
100	相双	審議会委員	その他	人口減少や企業の誘致活動は、全国的にも実施されていることであり、福島県をどのように選んでもらうかということが重要となる、福島県を選ぶ、相双地域を選ぶ付加価値があるのか、その付加価値をつけていくためにはどのようなやり方があり得るのかということについて、行政だけでなく、民間も一緒になって知恵が必要などと感じた。	—

No	地域	発言者	分野	意見等	県の考え方
101	いわき	意見発表者	第4章 政策分野別の主要施策 しごと	農家ばかりではなく、地域に住んでる方々が、その地域を維持していくための組織を立ち上げ、多面的支払交付金により活動しているが、多面的支払交付金の申請のハードルが高いとも聞いている。人口が減少し、農家も減少し、耕作放棄地が増えるのは当たり前であるため、優良農地を確保しなければ後継者も育たない。地域に即したやり方など柔軟な対応をしていただければ、多面的支払交付金事業を使い、維持できる地域がまだあるのではないかと。	多面的支払交付金については、適正な執行を図るため、申請に当たって、対象農用地や構成員を明確化し、組織の規約や活動計画書等を作成して市町村長へ提出して認定を受けることとなっております。 このため、組織の設立時から事業計画の認定までの事務負担の軽減に向けて、「多面的機能支払交付金の活動の手引き」を作成し活用を呼びかけているところです。 また、組織設立が難しい集落につきましては、既存組織との広域化を進めるなど、各地域が実状に応じて活動ができるよう支援しているところです。
102	いわき	意見発表者	第4章 政策分野別の主要施策 しごと	まちづくりの空間が車優先で境界が区切られており、人と人がつながる場所としての機能が果たせていないように感じている。そのため、私の住んでいるまちは、たくさんの学生が通学で利用しているが、学生がまちに関わる機会がどんどん失われているように感じている。 若者がまちに関われる空間があれば、自ずと地元に対する愛着や誇りが生まれ、一度転出しても、バージョンアップして戻ってきてくれる可能性が高いと感じている。	地域のまちづくりについて、市町村だけではなく地域の人々とも「ともに考え、ともにつくり、ともに育む」という視点で取り組んでまいります。
103	いわき	意見発表者	第4章 政策分野別の主要施策 ひと	町の面影を残すリノベーションによるまちづくりというのも、今後ますます重要になると感じている。移住者、移住希望者などに選んでもらえる地域になるためには、どこにでもあるような地方地域ではなく、その地域らしさが滲み出ているまちが実現できれば、若い人たちも、今いる方々も含めて、シビックプライドを育ていける場所になるのではないかと。	シビックプライドは、本県の復興と創生をさらに前に進める上で重要な視点と認識しております。地域の面影や個性を大切に、住民が主役となった地域づくりの支援を通して、地域の皆様が誇りや愛着を持つことができるまちづくりを進めてまいります。
104	いわき	意見発表者	第4章 政策分野別の主要施策 ひと	若者が移住やUターンを希望して来てくれた際に都市部で問題になるのが住居である。昔は、商店の上の階に居住していたため、その居住スペースを遊休資産として掘り起こし、それをリノベーションしてシェアハウスを運営するなど、若者等の都市部での居住などに使えるような取組を早急に地域全体で行う必要がある。	空き家バンクの紹介や、子育て世代等が空き家を取得してリフォームを行う際の補助を行っているところですが、いただいた御意見については今後の施策の参考とさせていただきます。
105	いわき	意見発表者	その他	行政側の方から渡される資料等は、正確なのかもしれないが、民間の人間には分かりにくいので、表現やデザインをもう少し分かりやすいような表現にしていきたい。分かりやすくすれば、たくさんの人が関わるのではないかと。	御指摘のとおり、県民の皆様が県づくりに関心を持って一緒に取り組んでいただくことができるよう、資料を見ていただく方を意識した分かりやすい表現やデザインを意識した資料作成に努めてまいります。
106	いわき	意見発表者	第4章 政策分野別の主要施策 ひと	地方創生は、人口は減るが自分たちが住みやすい、他から来た方にも住んでみないかと言えるような魅力ある地域づくりが一つの考え方である。 小名浜のくらしのエリアは、やや北側で、町中になると思うが、そこでは、高齢者が公共交通機関も活用して、歩いて暮らせるまちづくりが必要になると考えられる。	高齢者の移動手段の維持・確保については、広域路線バスを維持するための支援に加え、市町村が運行する乗合バスや実証事業等への支援を行っております。今後とも、地域の実情を踏まえながら、市町村と連携し、高齢者の移動手段の維持・確保に取り組んでまいります。
107	いわき	意見発表者	第4章 政策分野別の主要施策 ひと	地域の若い人たちが外に出ていった後、また戻って来てもらうためには、地域に魅力を感じてもらえるよう、地域の歴史を伝承していくことが非常に重要である。	地域資源を理解し、その魅力を伝えたり、地域活性化のための方策を考え、実行する学習活動やふるさとについて地域住民から学び、自ら地域について調べたり、発表したりする学習活動、地域の産業や郷土の伝統、文化芸能活動など、学びによるまちづくり、地域課題解決型学習、郷土学習の推進に取り組んでおります。

No	地域	発言者	分野	意見等	県の考え方
108	いわき	意見発表者	第4章 政策分野別の主要施策 暮らし	若い人たち、あるいは女性の活躍も含め、イベントをうまく活用しながら、まちづくりの中に若い担い手を引き込むことを考えていきたい。	—
109	いわき	意見発表者	第4章 政策分野別の主要施策 暮らし	まちづくりのメンバーは、全てボランティアで限られた時間の中で参加している。誰もが、まちづくりに参加できる、あるいはリーダーたる、そういう環境を作るにはどうするかが大きな課題である。地域まちづくりの事務局機能に対する補助金などの支援が継続的な形であるとありがたい。	サポート事業を通じて、地域で活動する団体等のスタートアップや育成を支援しております。また、各地方振興局においては、事業計画の磨き上げに関する助言を行うなど、持続可能な取組に向けた支援を行っております。 なお、集落支援員や地域おこし協力隊などの国制度等を活用することで、持続可能な事務局機能を構築している事例もあることから、活用可能な制度や優良事例に関する情報発信に取り組んでまいります。
110	いわき	意見発表者	第4章 政策分野別の主要施策 しごと	人材確保のためには、選ばれる業種・業態、魅力ある産業である必要があり、ICTやドローンなどの最新技術の活用や、休日の確保、賃上げなど学生に興味を持ってもらえるようなPRとそれらの取組に対する行政の支援や優遇があるとよいと考える。	魅力ある職場づくりには、ワーク・ライフ・バランスを推進する企業の取組が重要であると考えます。次世代育成支援企業の認証やイクボス宣言等の普及を企業に働き掛けるとともに、独自の休暇制度など、企業の優良事例を経営者向けセミナー等で紹介し、働き方改革の取組を支援してまいります。
111	いわき	意見発表者	第4章 政策分野別の主要施策 暮らし	公営住宅の間取りは2DKが標準的であり、居住空間が狭いことが子どもを多く産み育てていくことのネックになっているように感じる。4LDK程度の間取りがあれば、もう1人産もうという考えを後押しできるのではないかと。	県営住宅については、2DKの他に3LDKの間取りを設けているのが標準ですが、多子世帯であれば3LDKの間取りでも少し狭いと思われるかもしれません。 将来の人口減少により、県営住宅の供給に余剰が生じると推計されていることから、新規整備は計画されておらず、既存の県営住宅を改修して4LDKを整備しようとする場合には、大規模な改修を要し、入居者の移転も生じることから、多くの住棟で実施するのは、なかなか難しい状況にあります。 一方、県営住宅は築後40～50年の住棟が多くを占めており、設備の老朽化の解消に取り組まないといけな状況にあります。そのため、入居者の移転を伴わずに可能なユニットバス化、台所や洗面所の給湯化、バリアフリー化をまとめて行う改善工事を重点的に行っており、子育て世帯にも快適に生活できるよう居住性能の向上を図っているところです。
112	いわき	意見発表者	第4章 政策分野別の主要施策 ひと	保育園の確保、無償化、そして0歳児～2歳児保育の無償化や大幅減免など、根底から子育て世帯へのサポートを行ったらいいのではないかと。	第3子以降の3歳未満児の保育料を軽減する市町村に対し、その経費の一部を補助することにより多子世帯への支援を行っております。 子育て世帯への経済的な支援については、地方自治体の財政力により差が生じることなく、全国一律で実施されるよう国に要望しています。
113	いわき	意見発表者	第4章 政策分野別の主要施策 ひと	授業料免除や給食費の免除等、少なくとも高校生までは継続してはどうか。	給食費に関しては、県立高校では、一部の学校(夜間定時制高校、特別支援学校高等部)を除き、給食は提供されていません。 夜間定時制高校は就労している生徒を対象に、特別支援学校高等部は所得要件を満たした場合に補助を行っております。
114	いわき	意見発表者	第4章 政策分野別の主要施策 ひと	病児保育室がいわき市内に4箇所ある。1箇所に付き3人までの受付のため、もう少し増えるといいのではないかと。	病児保育に係る保育士や看護師の配置基準に従い、職員の確保状況や施設の利用状況を踏まえ、市町村において施設ごとに利用定員を定めています。 県では、病児保育事業を行う市町村に施設整備費や運営費を補助しています。

No	地域	発言者	分野	意見等	県の考え方
115	いわき	意見発表者	第4章 政策分野別の主要施策 しごと	女性のキャリア保証について、出産し、育児休暇後に戻って来た時に、職場に自分の居場所がある必要があるが、それを民間で行うことは非常にハードルが高く、産休、育休中は誰かが穴埋めをしなくてはならない。復帰しやすい環境を整える企業に対し、行政から何かサポートができればうれしい。	女性の活躍のための環境づくりを進めるため、仕事や家事・育児等に関するアンコンシャスバイアスの解消やライフイベントに応じた柔軟な働き方について理解を深めていく必要があります。このため、県では、企業経営者など組織トップの意識改革を目的としたシンポジウムを開催しています。 また、出産・育児と仕事の両立につきましては、令和4年4月より段階的に施行されております改正育児・介護休業法について、福島労働局等の関係機関と連携して県内企業への周知に努めるほか、仕事と家庭の両立に取り組む企業を支援するため、男性の育児休業や長時間労働是正等を対象とする奨励金を拡充して周知を図っているところであり、引き続き、働き方改革の推進に取り組んでまいります。
116	いわき	意見発表者	第4章 政策分野別の主要施策 暮らし	空き家が各地に増えている状況であるため、移住者受入のために上手く活用できないかと考えている。	移住者受入のための空き家の活用については、「住んでふくしま」空き家対策総合支援事業により、移住者が住まいとする空き家の改修等へ補助を行っております。
117	いわき	意見発表者	第4章 政策分野別の主要施策 しごと	エフレイが出来たが、立地する地域に住むのは、まだ生活環境が厳しいように感じる。いわきであれば、そうした条件が揃っており、いわきから浪江への直通電車があれば、いわき市にも研究者が住むことで、地域経済も潤うのではないかと。	避難地域においては、福島再生加速化交付金等を活用し、生活環境の整備を進めているところですが、F-REIの設立に伴い、今後、いわき市を始めとした浜通り地域に、研究者や家族、関連企業の従業員など、機構の立地により新たな人の流れの創出が期待されることから、市町村とともに住まいや商業、教育、医療など広域的な復興まちづくりを推進してまいります。 JR常磐線の利便性向上については、これまで、福島県鉄道活性化対策協議会を通じ、いわき駅以北の運行本数の増便や広野駅止まりの列車の延伸等について、JR東日本に要望しているほか、二次交通の整備にも取り組んでいるところですが、引き続き、沿線市町村と連携し、常磐線の高速化等について、JR東日本に対し、要望活動を行ってまいります。
118	いわき	意見発表者	第2章 福島県を取り巻く現状と課題	業種によってはフルリモートやそれに近い形態の勤務ができる場所もある。こうした層を受け入れていくためには環境整備が大切であり、Society5.0等の推進が大事であると考えている。	リモートワーク等に必要な光ファイバ網の整備を促進するとともに、データ連携基盤を整備し、県と市町村が共に利用可能な行政手続のオンライン申請サービス等の実装を進めるなど、DXを推進し、県民の暮らしがより快適で豊かなものになるよう取り組んでまいります。 コロナ禍を機にテレワークが普及し、仕事を変えずに地方に移住する「転職なき移住」という新たな移住の形が浸透しつつあることから、こうした流れを本県に呼び込むため、首都圏等のテレワーカーや企業を対象とした本県におけるテレワーク暮らし体験の提供やテレワーク施設の機能向上・付加価値創出に取り組んでまいります。
119	いわき	意見発表者	第4章 政策分野別の主要施策 しごと	漁業は3K労働の最たるもので、苛酷でブラックな就労環境の改善と併せて、人材確保を進める必要がある。 就労環境に関しては、船内居住環境の改善、夜間操業の見直しなどを進めている。 人材確保については、市や県の支援のもと、令和3年度から本格的な対策が進められ、特に乗組員不足が深刻であった底びき網漁船で、船主と就業希望者とのマッチングが行われ、3名の乗組員の確保につながった。 さらに、令和4年度からは、高校生や大学生を対象としたインターンシップ研修や、漁家子弟を対象とした漁業研修が開始され、漁業への定着促進が図られている。	新規就業者は、本県復興に向けた関係団体等の取組により、震災前の水準を上回る17人となりました。以後更なる操業拡大を進めていくためには、一層の新規就業者の確保と若手漁業者の定着に向けた取組強化が重要です。このため、漁業の魅力伝える出前講座の開催や、学生を対象としたインターンシップへの支援等に取り組むとともに、小中学生対象の乗船体験の実施や、長期研修の経費に掛かる県独自の支援などを行い、担い手の確保・育成に取り組んでまいります。 また、漁業就労環境については、御意見の取組に加えて、操業支援システムの開発などによる漁業操業の効率化や、県産水産物の付加価値向上の取組などにより、省力化と高収益をめざすふくしま型漁業の実現を推進してまいります。

No	地域	発言者	分野	意見等	県の考え方
120	いわき	意見発表者	第4章 政策分野別の主要施策 ひと	子供の10人に1人が不妊治療で生まれてくる状況が間近に迫ってきている。知識不足のまま加齢による残念な不妊になってしまう状況を回避するための施策を展開してほしい。	令和5年度から不妊症の検査に対する助成事業を開始し、不妊症の検査を受けやすい環境づくりに取り組んでいます。 また、福島県立医科大学に不妊専門相談センターを設置しているほか、各保健福祉事務所に女性の健康に関する全般的な相談に対応する電話相談窓口「女性のミカタサポートコール」を開設し、広く相談に対応できる体制を整えています。
121	いわき	意見発表者	第4章 政策分野別の主要施策 ひと	専門家による不妊に対する予防フォーラムに対象となる方を幅広く集めるため、県主導でオンラインにより開催してもらいたい。	福島県立医科大学への委託事業により、不妊治療に関する普及啓発のための講習会を年に1回開催しています。
122	いわき	意見発表者	第4章 政策分野別の主要施策 しごと	不妊治療をしていることを申請しなくても休める休暇制度等が必要である。企業が導入している事例を冊子や動画にまとめ、普及啓発することや、次世代育成支援認証企業の項目や県の公共入札の評価方式の加点項目に入れてもらうなどの導入しやすい環境整備が必要である。	不妊治療をはじめとした治療と仕事との両立につきましては、先進事例を経営者向けセミナー等で広く紹介し、また、次世代育成支援企業認証制度の認定項目に休暇制度を選択肢として設けるなど、企業の取組を支援しているところであります。 工事における条件付一般競争入札の総合評価方式につきましても、現在でも「働く女性応援」「仕事と生活の調和」の認証を受けている企業に対して加点評価を行っております。今後もより良い制度となるよう検証と改善を進めてまいります。
123	いわき	審議会委員	第4章 政策分野別の主要施策 しごと	子どもたちが小さなころから、様々な仕事があることを伝えていかなければならない。トップクラスの企業だから素晴らしいのではなく、小さくても、社会を支える企業の一つであることを教育することが必要である。	今年度新たに、小中学生を対象とした工場見学や様々な職業を疑似体験できるイベントを開催することとしており、子どもたちや保護者への県内企業の認知度を高めるとともに、子どもたちの地域に対する興味・愛着を育みながら職業観の醸成を図ってまいります。